



2006年度

★第3回日韓大学生国際交流セミナー★

報告書

お茶の水女子大学国際教育センター
同徳女子大学校外国語学部日本語学科



参加者
記念撮影



研究発表会



韓国民俗村観光

目 次

グラビア

セミナー概要

森 山 新（お茶の水女子大学）	1
-----------------	---

開講式挨拶

トピックとステレオタイプを乗り越えて

李 徳 奉（同徳女子大学校）	6
----------------	---

真の日韓共生時代を切り開く第一歩として

森 山 新（お茶の水女子大学）	7
-----------------	---

研究発表

韓国の子どもの文化について

－行事と伝統的な遊びを中心に－

（韓国グループ1）	9
-----------	---

子ども文化について－行事・食・遊びの視点から－

（日本グループ1）	14
-----------	----

韓国のウェルビング（Well-Being）

（韓国グループ2）	21
-----------	----

日本の美食文化について－おせち料理を中心に－

（日本グループ2）	25
-----------	----

韓国の結婚

（韓国グループ3）	30
-----------	----

結婚について

（日本グループ3）	38
-----------	----

韓国女性の美意識

（韓国グループ4）	44
-----------	----

日本女性の美意識について－化粧と整形を事例に－

（日本グループ4）	48
-----------	----

韓国のミュージカル－名声皇后、地下鉄1号線、ナンター

（韓国グループ5）	55
-----------	----

日本のミュージカル事情－宝塚歌劇団を中心に－

（日本グループ5）	61
-----------	----

朝鮮時代の女性の「心の解放」－朝鮮時代の女性生活－

（韓国グループ6）	67
-----------	----

江戸の町娘ライフ

（日本グループ6）	72
-----------	----

報告レポート

韓国人学生にとっての異文化交流の意義と今後の方向性について

水 口 里 香（同徳女子大学校大学院生）	77
----------------------	----

国際交流セミナーに参加した日本人学生の気づきと今後のセミナーの方向性
石 井 佐智子（お茶の水女子大学大学院生） …… 83

講 評

国際交流セミナーを終えて
金 榮 敏（同徳女子大学校） …………… 91

国際交流セミナーを終えて
李 徳 奉（同徳女子大学校） …………… 92

総 括

国際交流セミナーを終えて
森 山 新（お茶の水女子大学） …………… 94



韓国民俗村にて

セミナー概要

森 山 新（お茶の水女子大学）

1. 概 要

日 時	2006年8月22日(火)～28日(月)
場 所	韓国・同徳女子大学校（協定校）ソウル特別市城北区月谷洞23-1
参 加 者	日本側：本学の学生で異文化交流実習Ⅱの受講者（18名） 韓国側：同徳女子大学校の日本語・英語学科の学生 （2～4年生31名）
担 当	日本側：森山新（教員）、石井佐智子（大学院生） 韓国側：李徳奉・金榮敏・尹福姫（教員）、 水口里香・申恩浄ほか（大学院生）
ホームステイ先	日本語学科・英語学科などの学生宅
使 用 言 語	日本語
主 催	お茶の水女子大学国際教育センター・同徳女子大学校日本語学科・ 京王観光

2006年8月22日から28日まで、日韓の学生がお互いの文化を理解し親睦・交流を促進することを目的として、「第3回日韓大学生国際交流セミナー」が開催されました。主催は本学国際教育センターと韓国の同徳女子大学外国語学部日本語専攻で、今回参加した本学の学生は、全学共通科目である「異文化交流実習2」を履修した学生で、文教育学部、生活科学部から、1年生4名、2年生8名、3年生2名、4年生4名の計18名が参加しました。これに対し先方の同徳女子大学の学生は、外国語学部日本語専攻3年生を中心に31名が参加し、本学学生はこれら学生の家庭でセミナー期間中5泊のホームステイを経験しました。

セミナーの期間、本学からは森山が、同徳からは李徳奉先生、金榮敏先生、尹福姫先生が指導・教育を行いました。また本学からは石井佐智子さん、同徳からは、水口里香さん（本学卒業生）、申恩浄さん（本学交換留学予定）などの大学院生がセミナースタッフとして参加し、学部生をサポートしました。

ソウル・仁川国際空港に着くと、同徳のスクールバスが、さらに正門前にはお茶の水女子大学とのセミナー開催を歓迎する横断幕が私たちを出迎えてくれました。初日にはまず、韓国最大の日本語学院の時事日本語学院を訪れ、日本語会話の授業に加わり、日本語教育を体験しました。2日目は、子供、食、結婚、美意識、ミュージカル、歴史（江戸・朝鮮時代）の6つのテーマで、日韓双方の文化についての研究発表が行われました。3日目はテーマを同じくする日韓のグループが合同で野外実習を行い、それぞれのテーマに関する韓国の文化を体験し、4日目には再び大学に集まり、その報告会が持たれました。両国の学生が一気に親しくなるとともに、それぞれの研究を深化させたようすを窺うことができ

ました。

5日目はスクールバスを借り切ってソウル近郊の観光地、民俗村を訪れ、夜はセミナーの成功を祝い、パーティーが行われました。6日目は、それぞれのホームステイの家族と過ごしたり、親しくなった友だちとソウル観光をしたりしてソウル最後の一日を楽しみました。

最終日、大学前での別れは見送る韓国側の学生と、帰国する日本側の学生がともに涙、涙、涙で、再会を誓い合っていました。セミナー後の感想文を見ても、韓国の文化について多くのことを学んだだけでなく、韓国の人たちの大歓迎に対する感謝や心の広さ、異文化体験の感動や驚きが語られました。

2. セミナー準備

月 日	曜	日 程
4/22	金	セミナー説明会
5/12	金	授業1 グループ編成
5/19	金	授業2 グループ別テーマ決定
5/26	金	授業3 セミナー手続きの説明、グループ別に準備を開始
6/2	金	韓国語講座開講（希望者のみ）（毎週、7月21日まで）
6/26	月	保険申込締め切り
6/30	金	ミーティング1 各グループの進捗状況の発表
7/10	月	支払い締め切り
7/21	金	ミーティング2
8/21	月	ミーティング3

3. セミナー日程

月 日	曜	日 程	宿 泊
8/22	火	08:00 集合（第二旅客ターミナル3階） 10:00 成田出国→（JL951）→韓国・仁川空港着 13:30-14:30 スクールバスで大学へ 17:30-19:00 時事日本語学院（江南）授業見学 19:00-21:00 金学院長とともに夕食会	仁寺洞クラウンホテル泊
8/23	水	〈セミナー1日目〉（同徳女子大学校・大学院棟310） 司会 水口里香（同徳女子大院生）	ホームステイ

		09:30-10:00 開講式・オリエンテーション ・韓国側挨拶：李徳奉（同徳女子大） ・日本側挨拶：森山新（お茶の水女子大） 10:00-12:00 テーマ1「子供」、テーマ2「食」 12:00-13:00 昼食（学生食堂） 13:00-13:30 グループ別ミーティング （野外実習の予定） 13:30-15:30 テーマ3「結婚」、テーマ4「美意識」 15:45-17:45 テーマ5「ミュージカル」 テーマ6「江戸・朝鮮時代の女性」 18:00-19:30 歓迎夕食会	
8/24	木	〈セミナー2日目〉 グループ別野外実習	ホームステイ
8/25	金	〈セミナー3日目〉（同徳女子大学校・大学院棟310） 午前 グループ別野外実習 14:00-17:30 野外実習報告会 司会 石井佐智子（お茶の水女子大） 講評 金栄敏・李徳奉（同徳女子大） 18:00-19:30 院生スタッフとの反省会	ホームステイ
8/26	土	10:00-11:30 大学集合、スクールバスで民俗村へ 11:30-16:30 民俗村観光 18:00-20:00 送別会（江南）	ホームステイ
8/27	日	自由時間	ホームステイ
8/28	月	10:30 大学集合、スクールバスで空港へ 13:45 韓国・仁川空港発→（JL952）→16:10成田着	

4. 参加者

〈日本側〉

研究テーマ	氏名	学 科	学年
1 子供	及 川 裕 子	文教育学部人文科学科（グロ文）	2
	鈴 木 結加里	文教育学部・言語文化学科（グロ文）	2
	小 林 加菜未	生活科学部・人間・環境科学科	1
2 食	吉 野 まゆみ	文教育学部・言語文化学科（グロ文）	2
	田 村 あゆみ	文教育学部・人文科学科（グロ文）	2
3 結婚	神 野 可奈子	文教育学部・人間社会科学科（グロ文）	2

	高野麻未	文教育学部・人文科学科（グロ文）	2
	平原紀子	文教育学部・言語文化学科	1
4 女性と美意識	沖山郁子	文教育学部・人文科学科（地理）	2
	宮川茉莉子	文教育学部・人間社会科学科	2
	吉田知世	文教育学部・人文科学科（地理）	3
	前田依利子	文教育学部・人間社会科学科	4
	長畑香織	文教育学部・人文科学科（歴史）	1
5 ミュージカル	野呂順子	文教育学部・言語文化学科（日文）	4
	浅野真理子	文教育学部・言語文化学科（仏文）	1
	秋山美優	文教育学部・言語文化学科（総合）	3
6 江戸時代の女性	常木清夏	文教育学部・人文科学科（歴史）	4
	神田恵	文教育学部・人文科学科（歴史）	4

〈韓国側〉

班	名前	読み	学 科	学年	ステイ
1 子供	최정옥	テェ・ジョンオク	外国語学部・日本語学科	3	小林
	조용선	チョー・ヨンソン	外国語学部・日本語学科	3	鈴木
	이선화	イ・ソンファ	外国語学部・日本語学科	3	及川
2 食	조채원	チョー・チェウオン	外国語学部・日本語学科	3	—
	김태희	キム・テヒ	外国語学部・日本語学科	3	吉野
	권이선	クオン・イソン	外国語学部・日本語学科	2	—
	정진	チョン・ジン	外国語学部・日本語学科	4	—
	장은진	チャン・ウンジン	外国語学部・日本語学科	3	田村
3 結婚	이정민	イ・ジョンミン	外国語学部・日本語学科		—
	문길영	ムン・キルヨン	外国語学部・日本語学科	3	神野
	이연주	イ・ヨンジュ	外国語学部・日本語学科	3	高野
	문신원	ムン・シンウォン	外国語学部・日本語学科	3	—
4 女性と美意識	한송이	ハン・ソンイ	外国語学部・日本語学科	4	—
	김혜성	キム・ヘソン	外国語学部・日本語学科	3	吉田
	장은정	チャン・ウンジョン	外国語学部・日本語学科	3	—
	장은영	チャン・ウニョン	外国語学部・日本語学科	3	—
	김민영	キム・ミニョン	外国語学部・日本語学科	3	—
5 ミュージカル	도라지	ト・ラジ	外国語学部・日本語学科		—
	안지선	アン・ジソン	外国語学部・日本語学科	2	—

	박유현	パク・ユヒョン	外国語学部・日本語学科	3	—
	박소영	パク・ソヨン	外国語学部・日本語学科	3	秋山
	박수정	パク・スジョン	外国語学部・日本語学科	3	浅野
6 朝鮮時代の 女性	박소연	パク・ソヨン	外国語学部・日本語学科	3	神田
	설혜윤	ソル・ヘユン	外国語学部・日本語学科	3	長畑
	유안나	ユ・アンナ	外国語学部・日本語学科	3	常木
	양나루	ヤン・ナル	外国語学部・日本語学科	3	—
	강한나	カン・ハンナ	外国語学部・日本語学科	3	宮川
7 ホームステイ のみ	정지은	チョン・ジウン	外国語学部・日本語学科	3	沖山
	한나영	ハン・ナヨン	外国語学部・日本語学科	3	前田
	김정은	キム・ジョンウン	外国語学部・英語学科	3	野呂
	김정은	キム・ジョンウン	外国語学部・英語学科	4	平原

トピックとステレオタイプを乗り越えて

李 徳 奉（同徳女子大学校）

お茶の水女子大学の皆さん、おはようございます。日本を発つ前には、ソウルは涼しいと思っていたのですが、意外に東京と同じ、またはもっと暑いのではないかと思います。

実は、2週間ほど前にニューヨークのコロンビア大学で日本語教育世界大会がありまして、私も参加しました。その大会でも話題になっていたのが文化を取り入れた日本語教育でした。ただ、文化を取り入れるためには、いわゆるステレオタイプに気をつけるべきだということでした。もちろんトピック中心というのも一般的にはできるだけ避けるべきだと言われています。しかし、今日、私たちが今、取り上げようとしているものも実は、ほとんどトピックです。ただし、文化というのは概念化として知識を理解しなければならない側面もあります。ただ、知識だけをそのまま鵜呑みにしては、もちろん文化の理解にはつながりません。それではどうすべきかと言うと、トピックはトピックですが、その構造的な理解、文化の背景を考慮して理解せずに知識だけで文化を理解するのは危険なことだということです。

日本語で「分かる」は、文法で言うと自動詞です。「分かる」ためには「分けて」、そして、受け身化して「分けられる」ことです。自分が「分かれる」ことによって「分かる」のだと思います。そして「分かる」ためには、自分が変わらない限り、他の文化への理解は難しいと思います。

「異文化」という言葉も最近では避けられる傾向にあります。異文化はエイリアンです。共通点が全くない、異なる文化ということになります。ですから最近では、他の文化、「他文化」という言葉が好まれています。他文化を理解するためには、自分が変わらなければならないという態度が大事だと思います。

今日から5日間、私たちは韓国文化、日本文化の知識を中心に話をしていくわけですが、それをただ、知識として受け取るのではなく、私たちがこれからどのように理解するか、また体験を通じて自己を啓発し、消化していく練習としてセミナーに臨んでください。これから5日間、楽しい、多様なプログラムが待っています。勉強も大事ですが、とにかく「他文化」を楽しく体験してください。

実りのあるセミナーにしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

真の日韓共生時代を切り開く第一歩として

森 山 新（お茶の水女子大学）

お茶の水女子大学の森山と申します。私は2001年にお茶大に来る前に10年以上韓国に住んでいましたので、すっかり韓国語と韓国文化になじみ、授業中にも知らないうちにコードスイッチが起き、韓国語が口から出たりしてしまいます。お茶大に行って5年になりますが、韓国との交流をぜひ進めていきたいと思い、3年前に同徳との間でこのような企画を始め、今回が第3回となりました。

現代は「グローバルな時代」とよく言われますが、同時に各国、各地域の個性を重視する「グローバルな時代」でもなければならぬと思います。私たちはグローバル化というと、とかく欧米に目を向けてしまいがちですが、身近なところに目を向けると、日本と韓国、北朝鮮、中国、台湾といった東アジアには、共生とは程遠い、多くの問題が残されていると思います。そこで欧米だけではなく、アジアにも目を向けたいという思いから、お茶大の国際交流の一つの柱として日韓交流をすえ、3年前にこの企画を立ち上げました。第1回目は韓国・同徳で行い、お茶大からは12名の学生が参加し、第2回目は日本・お茶大で行い、同徳から12名の学生が参加しました。そして今回は18名のお茶大の学生が参加しています。

昨日韓国に着き、午後、18名の学生といっしょに食事をし、地下鉄に乗り、街を歩きました。私にとって韓国は完全に自文化となってしまっていますが、18名の学生たち、とりわけ今回はじめて韓国を訪れた学生には、パピンス（かき氷）の食べ方、電車の乗り降りのスピードの速さ、お年寄りに対し席を譲ることなど、恐らくいろいろな部分に異文化を感じたのではないかと思います。

先ほど李先生もおっしゃっていましたが、異文化理解・他文化理解ということは、伝統文化などの「知識」を得ることも重要ですが、それ以上に最近では、異文化に接した際に、それをどうとらえるのか、理解するのか、尊重できるのか、という「能力」、文化を読み解く「リテラシー」の側面が重視されつつあります。私たちは異なる文化に触れたとき、知らないうちに自文化と比べて誤解したり、理解できずに蔑視したりしがちですし、そうでなかったとしても、この人たちは単に自分たちとは異なる習慣を持っているのだからしかたないと突き放し、表面的な解釈にとどまってしまうことが多いと思います。しかしながら相手の文化の背景を詳しく知っていけば、その文化が大切にされ、代々受け継がれてきたのにはそれなりの理由があるということに気づくことになり、相手の文化を自文化同様に尊重できるようになると思います。また自文化の良い点、悪い点といったものを客観的な視点から見つめられるようになると思います。私が10年も韓国にいることとなったのも、韓国の文化の良き側面、日本にはない良き側

面に触れることができたからでした。そのようになってこそ、「異文化」が「多文化」、つまり「文化の多様性」として理解、尊重でき、「共生の時代」を築くことができると思います。この日韓大学生国際交流セミナーは、日韓の若者が、お互いの文化の背景を詳しく知り、体験し、理解し、尊重し合うために、勉強したり討論したりする場を提供してくれると思います。そしてお互いの文化の良き側面を学び尊重し合うことができれば、この交流は、政治の力を越え、韓流ブームを越えて、より深い意味での日韓交流となり、日韓共生の時代を開くことができると思います。どうかこのセミナーがその第一歩となり、そこに参加した皆さんが新しい日韓関係を築く架け橋となってくださることを祈ってやみません。

同徳の皆さんには1週間いろいろとお世話になりますが、どうかよろしくお願いたします。



開講式で挨拶する
森山 新先生



発言するお茶大
の学生

韓国の子どもの文化について —行事と伝統的な遊びを中心に—

崔 滯 玉
李 善 和
趙 庸 善
吳 瑛 恩
金 仁 姫
元 ミ ナ

1. はじめに

今日、韓国だけではなく、世界の多くの国で子どもの遊びの文化は変化しつつある。現代技術が発達していくにつれ、子どもは徐々に静かな個人の世界で過ごすようになった。子どもの文化は成人文化につながるため、大変重要であり、教育への入り口でもあると言えよう。そこで、この調査を通して子どもの文化の重要性を省みながら、今の子どもたちが何を習っているのか、韓国の伝統的な遊びの特徴について調べ、子どもの遊び文化の重要性を考察する。

2. 子どもの行事

ベギルとトル、こどもの日について以下、解説していく。

2.1 ベギルとトル

	ベギル(百日)	トル
時期	子供の「誕生100日」をお祝いする行事。	子供が生まれて1年を迎える日に行われる行事。
意味	1) 子どもが生まれると家の前に縄を張り、人が入って来るのを防ぎ、母親と赤ん坊の健康に全て注意を注ぐ。 2) 生まれて21日が経つと縄をしまい、母子が無事に100日を迎えたことをお祝いする。 3) ベギルは「百」という「完全数」としての意味と切りのよさから発想されたもの	

	<p>である。</p> <p>4) 昔は幼児の死亡率が高く、無事に100日まで生き延びる確率が低かったため「誕生100日」に大事な意味を与えた。</p>
構成	<p>1) 様々な料理を用意し、親戚や近所の人達が集まってお祝いする韓国独特の風習。</p> <p>2) 最近は一般的にバイキングのような形式で食事会を楽しむ。</p> <p>3) 両親、祖父、祖母は、韓国の伝統衣装であるチマチョゴリを着ることが多い。</p> <p>4) 「ドルジャンチ」は、子供の誕生を盛大にお祝いする一生に一度の特別な日と考えられている。</p> <p>5) お祝いに子どもに金の指輪や現金(10万ウォン)、おもちゃなどをプレゼントする。</p> <p>6) 「ドルジャンチ」は帰りに客とお餅を分け合い、客は心から子供の幸運を祈る。</p> <p>7) 「ドルチャビ」とは子どもの将来を占うものである。テーブルの上に、お餅、素麺の入ったスープ(長寿を意味する)、棗、米、糸、筆、本、紙幣などを置く。男の子の場合は弓矢(おもちゃやその時代に合わせて野球のバットやサッカーボールでもよい)、女の子は裁縫道具などを置く場合もある。子どもが何をつかむかを楽しみながら将来を占う。米は食べ物に困らない、糸や棗は長生き、筆や本は学者になること、弓矢は武官(昔なら)になること、裁縫道具はよいお嫁さんになることを意味する。</p> <p>8) 最近ベギルに特別儀式はせずに、家族だけで簡単に食事をする場合が多い。</p>
衣装	韓国の伝統衣装であるハンボク(トルボクともいう)

2.2 こどもの日

毎年5月5日(法的な祝日)がこどもの日である。未来の社会の主役である子どもの人格を尊重し、子どもに対する愛護思想を高揚するために制定された記念日である。この日には子どもが楽しめる行事を準備し、子どもの成長と発達を願う。

2.2.1 由来

1923年ソパ(小波)バンジョンファン(方定煥)らがいる色動会がこどもの日を公表し、記念行事を行った。1927年からは5月の1週目の月曜日に変更されたが、1945年の独立後にはまた5月5日に戻された。

1957年には大韓民国の子どもの憲章が宣布され、1970年には「役所機関の祝日に関する規定」(大統領令5037号)によって祝日に定められた。

2.2.2 行事

各市、道、郡及び多くの団体で記念式が行われる。記念式の前には「大韓民国の子どもの憲章」を朗読し、模範的な子どもと青少年に賞を授与する。また、子どもの体育大会、雄弁大会、作文大会、仮装行列、妙技示範、花火、子どもフェスティバルな

ども行われる。

3. 伝統的な遊び

男の子と女の子の遊び、男女共通の遊びについて以下、解説していく。

3.1 男の子と女の子の遊び

	男の子の遊び		女の子の遊び
	チェギチャギ	ダクサウム	ノルティギ
意味	「チェギ」は「羽根」、「チャギ」は「ける」の意である。	韓国の伝統遊びである。	主にお正月などに女性たちが楽しむ伝統的な遊び。
由来	中国の武術鍛錬のための訓練（布切れなどを入れた革の袋を蹴る訓練）に由来。	力比べを楽しんで来た先祖たちがシルムをはじめ、さまざまな遊びを作り上げる過程で生まれた。一方の足で長く立ち上がったり、一方の足だけで遠く行って来たりする遊びに由来する。	ノルティギには、普段外出が不自由だった女の子が特別に外の世界に接することが許された遊びである。
遊び方	<ul style="list-style-type: none"> ① 足の内側で羽根を落とさないようにけて遊ぶ。 ② 1人で羽根を落とさないで何回ぐらい蹴り続けるかを競う。 ③ 4人でまるくなってパスしていくのが昔ながらの遊び方。この場合、けりそこなった人が負け。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 一方の足を前方へ高く曲げて取る。(自分の脚を両手で取って遊び準備をする) ② 一方の足だけで立って膝や身で友達を押して倒す。 ③ 足を取った手を放すと負け。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ワラの束や、穀物の入った袋などを置き、その上に細長い板を置く。 ② 板の両端にのった二人が拍子に合わせてジャンプする。 ③ 相手が落ちてくる力を利用すればより高く跳ねることができる。

3.2 男女共通の遊び

	ユンノリ	ヨンナリギ (たこ揚げ)
時 期	百濟時代 (約1500年前) からの遊び。 木で作った道具 (ユッ) で遊ぶ。	主に正月一日から旧正月の間に楽しむ伝統的な遊びである。
特 徴	正月などの祝日によく行われる韓国の伝統的な遊び。今でも広い地域で楽しまれている。	「送厄迎福」という文字を書いたたこを高く揚げ、糸巻きの糸がなくなったら糸を切って一年の無病息災を祈る。
遊び方	<ul style="list-style-type: none"> ① A、Bの2つのチームに分かれて、1チームが4個のコマを持つ。 ② チームで順番に4本のユッを投げる。落ちている4本のユッの状態によって進めるコマが違う。 ③ コマを1個ずつスタートさせるか、いくつかまとめて進めるかは自由である。 ④ 個のコマが相手のチームより早く一周した方が勝ち。 ⑤ 相手のチームに追いつかれたら、そのコマはスタートにもどらなくてはいけない。 ⑥ コマが◎のところで止まると= (四角の内側) の方へ近道ができる。 ⑦ 相手のチームからどう逃げるか、どう追いぬくかを考えながら進めるところがこのゲームのポイントである。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 高く上げる。 ② たこあげ争いという代表的なたこあげがある。二人以上がたこを高く上げ、相手のたこ糸を先に切った方が勝ちとなる遊びである。

4. 考 察

子どもの文化はその時代の大人の文化にもつながる重要なものだと認識する必要がある。韓国の伝統的な遊びを通して今日の子どもの不足している社会性と協同精神について考える機会を持ち、人との関係から生きていく方法を体験できる遊びを活性化させる必要もあると考えられる。

〈参考文献〉

- 国立国語院 (1996) 『韓国文化』
 金併樽 (2004) 『韓国の子供の文化』

〈実 習〉

実習の目的：韓日の子どもの文化について体験する。

- 24日 10：00－12：00 サムソン博物館を訪問、1階で子どもがわかりやすく科学を勉強できる施設を見学。
- 12：00－14：00 2階で子どもがわかりやすいように、体について説明する施設の見学。
- 14：00－18：00 チンジルバンへ行き、子どもたちを観察。
- 25日 10：00－13：00 報告会準備。



研究発表（韓国1）



サムソン博物館見学

子ども文化について

—行事・食・遊びの視点から—

及川裕子
鈴木結加里
小林加菜美

1. はじめに

今の大人達も皆、昔は子どもであった。そして今の子ども達はいつか大人になる。誰でも子どもという期間を経て大人になり、その期間を経験しない者はいない。そして子ども時代に受けた刺激は、様々な形で人を成長させ一人の人間を創り上げる。そういった点では、どこの文化においても子どもの重要性は無視することはできず、また、未来の社会や文化を担う生きた財産であることは明らかである。しかし、そうは言っても、異なる文化において、子どもに対する捉え方や子どもの位置づけ、子ども自身の遊び方など子どもにまつわる文化にはたくさんの違いがあり、そこにはその社会独自の文化が反映されているといえるのではないだろうか。そのように考えた私達は「子ども」というテーマを設定し、日本と韓国を対象に研究を行うことにした。具体的には、子ども文化が顕著に現れる①行事、②食、③遊びの3つのトピックに注目し、調査を進めていくこととし、このレポートでは報告会で発表した内容をまとめ、それを踏まえた上で考察していくこととする。

2. 日本の子供の年中行事

この章では、妊娠5ヶ月から生後1歳までの子どもの行事について解説する。

2.1 帯祝い～妊娠5ヶ月～

帯祝いとは、妊娠5ヶ月目の戌の日に、腹帯をまいて妊娠を祝い、出産の無事を祈る儀式のことである。着帯祝い、帯掛け、帯回しともいう。現在はほぼ5ヶ月にはいった頃に行われるが、時代・処によって時期は異なっており、三・五・六・七ヶ月と様々である。岩のようにたくましく、元気な子供が生まれるようにと、腹帯のことを「岩田帯」という。戌の日に行うのは、犬は多産な上お産が軽いからとされているが、地方によっては安産の守りとして熊や猪を祭っている場所もある。

2.2 お七夜～生後七日目～

赤ちゃんが生まれた日から数えて7日目に、赤ちゃんに名前をつけ、白紙に書き、神棚や仏壇に貼って、赤ちゃんが「人間として存在している」ということをその土地の産神様や地域の人々に報告をする祝いをお七夜という。名づけ祝い、命名式ともいわれる。7日目に行く理由としては、諸説あるが、その1つとして穢れであるお産後、産婦は別の小屋に忌籠もる習慣があり、産婦の床上げを行い父親の産の忌みが明ける七日目に初めて産児が外出し、家の神やかまど神にお参りしていたことがあげられている。

2.3 お宮参り～生後一ヶ月～

お宮参りとは、その土地の守り神である産土神に赤ちゃんの誕生を報告し、健やかな成長を願う行事である。一般的には、男子が生後31・32日目、女子が生後32・33日目がいとされているが、地域によって参拝する日は生後30日から100日前後までと様々で、特に決められていない。実際は、生後30日前後で穏やかな天気の日であれば問題ないとされている。お宮参りも、産の忌みの関係から、まだ忌明けが終わっていない母親に代わり父方の祖母が赤ちゃんを抱くのが一般的なスタイルである。赤ちゃんに着せる祝い着は、男子は羽二重の紋付で鷹や鶴などのおめでたい絵柄の熨斗目模様、女子はちりめんの花柄・友禅模様が本格的である。

2.4 お食い初め～生後三ヶ月～

お食い初めとは、子供が一生食べ物に困らないように願い赤ちゃんに食べ物を食べさせる儀式である。お食い初めは生後100日目に行うのが一般的であるが、近畿地方では「食いのばし」といってお食い初めをのばせば長生きできると120日以後の吉日に行うことが多く、地域によって異なるようである。お食い初めのメニューは、タイなどの尾頭付きの焼き魚、すまし汁、煮物、香の物、赤飯・白飯が正式で、そのほかに丈夫な歯が生えるように、氏神の境内や河原・海岸など水辺の石を用いた歯固めの小石としわがたくさんできるまで長生きできるようにと梅干を添える習慣もある。

2.5 初節句

初節句は子供が生まれて初めてむかえる節句で、今までの無事の成長を祝い、今後の健やかな成長と厄除けを願う行事である。3月3日の桃（上巳）の節句が女子の節句、5月5日の端午の節句が男子の節句であるが、桃の節句も端午の節句も昔は男女の別はなかった。江戸時代頃から、豪華な雛人形は女の子に属するものとされ、一方、5月の場合は菖蒲を使うことから菖蒲（しょうぶ）が勝負に通じて武士の男の子のお祝いと分化していった。

桃の節句の時に飾られるお雛さまは、赤ちゃんに降りかかろうとする災厄を代わりに引き受ける災厄除けの意味があり、また、一緒に飾られる紅、白、緑の三色でつくられた菱餅は「桃」「雪」「草」を表しており、雪がまだ残る中、桃が咲き地面から草がはえる3月

を表現しているといわれている。

現代、5月5日はこどもの日とされ、男子の節句としての意味は薄れつつあるが、今も男子のいる家庭では5月5日に鯉のぼりを立て、よろいやかぶとを飾る習慣がある。これは出世魚である鯉や勇ましいよろいやかぶとを飾ることで、男の子の出生を祝い、将来への夢を託す意味がある。またこの日に柏餅やちまきを食べるが、これは柏の葉は新芽が出るまで葉が落ちないことから、家系が絶えないとされていることに由来しており、また、ちまきは、高名な詩人屈原が失意のまま身を投げることになったことを悼んだ人々が竹の筒に米を入れて湖に投げ入れたという中国の故事に由来している。

2.6 初誕生日～生後一年～

初誕生日は、満1歳の誕生日を祝う行事である。昔日本は、正月が来ると1つ年をとるという数え年で年齢を数えていたので誕生日を祝う習慣はなかったが、初誕生日だけは盛大に祝われた。また、赤ちゃんが歩き始める時期でもあることから「歩き祝い」ともいわれる。この日、「立ち餅」「力餅」といって病気に負けず強い子に育って欲しいとの願いを込め、赤ちゃんにお餅を背負わせたり足で踏ませたりする風習がある。この餅は「一升餅」といわれ、背負わせる理由は諸説あり、わざと倒れさせることで家を離れて暮らすようになることを止めるとする説と、一生食べ物に困らないように背負いきれないほどの餅を持たせるとする説がある。

3. 子供の食文化について

3.1 駄菓子について

昔から子どもに食べられているお菓子として駄菓子がある。子どもは小さな金額のお金を持って、友達と近くの駄菓子屋さんで足を運ぶ。以下では、その駄菓子に注目して述べていく。

3.1.1 駄菓子の発祥

元は江戸時代に雑穀や水飴などを材料に使用して作り上げ、庶民の間食として食べられていたもので、価格の安さから一文菓子と呼ばれていた。

地方の藩においては常備食として蓄えていた「糰」の払い下げを行っていたことから、それを材料として駄菓子を作り上げ、今も売られる伝統的な郷土菓子として定着した地方もある。特に東北地方の仙台藩・会津藩・鶴岡藩・南部藩などは有名である。

駄菓子という名称は、当時的高级菓子の名称である上菓子の対称としてつけられたもので、関西地方では雑菓子（ざつがし）とも称されている。この頃の駄菓子は製造に用いる材料が制限され、高価な白砂糖などを用いることは許されなかった。伝統的な駄菓子に「干し柿の甘さ」という言葉が残されているが、これは当時の様子を暗示する言葉だったとも考えられている。

3.1.2 現在の駄菓子

ポン菓子（ぼんかし、ぼんがし）、ドン菓子（どんかし、どんがし）とは、コメなどの穀物に圧力をかけた後に一気に開放することによってふくらませて作った駄菓子的一种である。単にポンまたはドンと呼ばれることがほとんどで、甘麩、三角飴、黄な粉飴、ソースセンベイなど種類も豊富であり、選ぶ楽しさと飽きさせない工夫がなされている。物によってはクジ引きが出来、当りが出ればおまけが貰えるのも子どもに人気があった理由の一つである。

3.1.3 セミナーで配った駄菓子

にんじん：にんじんは別名ポン菓子（ぼんかし、ぼんがし）、ドン菓子（どんかし、どんがし）と言う。コメなどの穀物に圧力をかけた後に一気に開放することによってふくらませて作った駄菓子的一种であり、原料はコメ、オオムギ、ソバである。

すっぱいレモンにご用心：レモン味の他にブドウ、ウメなどさまざまな種類の味がある。一袋に「すっぱい」「ふつう」「あまい」の3種類のガムが1つずつ入っている。3人で買って誰がどの味になるかなどを楽しむ。

普通のガムに近いので、私達が配った駄菓子の中で韓国の学生に一番人気があったようである。

酢こんぶ：名前の通りの酢の味のする昆布。

韓国の学生は「こんなものを子どもが食べるの？」と、とても驚いていた。韓国では大人がおつまみとして食べているようだ。

しかし、現在はスナック菓子の方が主流のため、駄菓子よりもスナック菓子がよく食べられている。

3.2 お子様ランチ

3.2.1 お子様ランチとは

お子様ランチとは、子どもの好きな料理を少しずつおりませたもので、ファミリーレストランなど多くの店で取り入れられている。子どもが喜ぶような彩りで盛り付けられており、玩具などがついていることも多く、その種類も豊富である。アレルギーに対応したものや、こどもの日やひな祭りなど行事に合わせたお子様ランチもある。普通12才までの子どもしか食べることができない。

韓国にはお子様ランチは無いようである。

4. 子供の遊び

4.1 子供の絵本

昔も今もたくさんの子どもが絵本を読んでいる。以下は、日本で昔から人気のある絵本シリーズで、報告会でも紹介したものである。

ノントンシリーズ：1976年8月偕成社から、『ノントンぶらんこのせて』『ノントンおやすみなさい』を皮切りに、数十冊が刊行されている。白い猫を主人公としたストーリーで、作者はキヨノミチコである。

うさこちゃんシリーズ：オランダのデザイナー、ディック・ブルーナが描いた絵本で、全世界で8000万部を売り上げている。日本では1963年に福音館書店から初刊行された。訳者石井桃子による訳語に始まった。

ぐりとぐらシリーズ：双子の野ねずみ「ぐり」と「ぐら」を主人公とするストーリーである。1963年に初刊行され、シリーズ累計発行部数は日本だけでも2000万部を超えており、世界各国で親しまれている。

4.2 日本の民話

以下は報告会で紹介した民話である。

桃太郎：桃から生まれた桃太郎が、犬・猿・キジを連れて鬼退治に行く話である。

花さかじいさん：犬をかわいがったお爺さんが犬の恩返しを受ける一方で、それを羨む意地悪なお爺さんが痛い目を見る話である。

さるかに合戦：木に登れず柿を取れないかかんに、猿が意地悪をするが、最後は猿がやつつけられてしまう話である。

これらの民話は、地方によってバリエーションがあるが、大きなストーリーは共通している。

また、子どもを楽しませるストーリー性の他に悪さをしてはいけないことを教える道徳的な役割も果たしていると言われている。

4.3 子ども達の遊び場

ゲームの種類が豊富になるにつれて、室内で遊ぶ子どもも多くなっている。現在の流行としては、男の子の間では虫を闘わせて遊ぶ「虫キング」、女の子の間では着せ替えを楽しむ「おしゃれ魔女」に人気があり、ポケモンは性別を問わず相変わらずの人気を獲得している。これらのゲームではテレビゲーム・カードゲームはもちろん、様々なジャンルで玩具が製造されており、このキャラクターにちなんだグッズも多い。

また近所の公共児童施設を遊び場にする事も多く、そこにはボールや一輪車、ブロックやまんがなど多くの遊具や玩具が揃っており、年齢に応じて様々な遊びに触れることが出来る。

屋外の遊び場としては、やはり公園がある。開放された学校の校庭を利用することもあるが、いずれにしてもその遊具を使って遊んだり、鬼ごっこをしたりして遊んでいるようである。

子どもは遊び場を見つける天才であるため、どんな場所でも遊び場にしてしまう。

5. 考 察

以上、行事・食・遊びに着眼し、日本の子どもの文化について見てきた。どの点においても共通していえることは、どれも日本独自のもので、日本人としての物事や社会の捉え方に基づいているということである。私たちは、それらを子どもの頃から無意識のうちに習慣として受け入れ、自然に日本人としての要素を学び身につけてきた。文化は、長い時間と歴史を経て築かれ、次世代へ語り継がれることで生き残り、そしてそれを何度も繰り返して国の基盤となる。子どもは、その文化の影響を受ける最初の存在である。そういった意味で、子どもの文化は、人間形成だけでなく「国民」形成の点でもその人の基盤となる非常に重要なものであり、いかに子どもの文化を伝えるかが国家の存続にかかわるといっても過言ではない。だからこそ、子どもの文化には国の違いがよく反映されており、子どもの文化を知ることは異文化理解の大きな手助けとなるといえる。しかし、一方で問題もあり、子供はその純真さがゆえに文化を「そのもの」として疑うことなく受け入れ、また伝える側も文化の持つ意義を教えることをほとんどしない。事実、私たちも文化自体は知っていても、その意義は知らないというものがほとんどだった。つまり、子どもの文化は習慣・慣習に頼っている部分が大きいと言えよう。時代の変遷と共に、多くの文化が失われたのも、やはりそのものの意味を知らないということに起因しているといえる。文化を失えば、私たちは自身の基盤も失うことになる。今後、私たちは、子どもの文化の重要性を認識し未来を担う子どもたちに、単なる習慣ではなくそのものの意義をきちんと伝えることが必要である。

〈参考URL〉

All About 冠婚葬祭 <http://allabout.co.jp/family/ceremony/>

暦と天文の雑学

<http://koyomi8.com/directjp.cgi> http://koyomi8.com/reki_doc/doc_1320.htm

神社と神道 神社オンラインネットワーク連盟

<http://www.jinja.or.jp/faq/answer/02-02.html>

占星術 <http://www.ffortune.net/calen/hina/hina4.htm>

たべもの資料館 <http://www.kitami.jrc.or.jp/eiyou/mame/tango/tango.htm>

日本文化いろは事典 <http://iroha-japan.net/iroha/>

フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』 <http://ja.wikipedia.org/wiki>

〈実 習〉

実習の目的：韓国の子供の様子を観察し、日本の子供と比較する。

24日 10時～ サムソン子供博物館を見学

27日 民族村にて伝統的な遊びを見学

どこの国においても子どもは無邪気がかわいいと思った。訪れた子供博物館は、予想に反

し西洋的なものだったが、その中でも、韓国の歴史・伝統を「勉強する」のではなく、楽しく、自然に自ら「学びとる」スペースがきちんと配置されており、歴史や伝統を大切にしている印象を強く受けた。グローバル化で国家という境界線が薄れてきている中、自分の国の歴史や文化を知るといことはとても重要なことであり、そういった知識は他国の人と交わる上で大きな役割を果たすと感じた。

報告会で先生方に指摘されたことを踏まえ、韓国の子どもたちの様子を注意深く見るようにしていても、そこから異文化を学びとることは非常に難しかった。26日の自由行動のときなどに、地下鉄やバス、市場などで韓国の子どもの言動に注意を払うようにしても、親子の会話や子ども同士の会話でどのようなことを話しているのかがわからなかったために、結局、日韓における子どもの大きな相違を見つけられなかったように思う。日本人との違いが存在するのは確かだが、その人、その子どもだけを見て、それを異文化と捉えていいのか、偏見につながってしまうのではないかという点でかなり悩んでしまったのが原因である。人間が対象であるだけに、違いをはっきり提言することは困難だと思った。

しかし、韓国の友人から指摘されたことは「日本のお母さんは優しい」ということであった。彼女は日本のドラマから日本の母親像を作っていたのだが、彼女の話によると話し方や子どもの呼びなど日本の母親は韓国の母親よりも優しいというのである。実際に観察した印象として、韓国の母親と子どもの会話は声が大きく活発な印象な印象を受けたのは確かである。しかし、それが個人的なものなのか、言語的特徴によるものなのかはわからない。



研究発表（日本1）

質問する韓国の学生



韓国のウェルビング（Well-Being）

鄭 眞
金 泰 熙
權 伊 宣
趙 采 遠
張 銀 珍

1. 韓国のウェルビング

1.1 ウェルビングの定義

ウェルビング（Well-Being）とは幸せ、生きることへの満足、病気がない状態を包括する概念であり、健康的な生活を通じて「幸せ」や「生きることへの満足」を追求することを意味する。

1.2 韓国のウェルビング食の発展

(1) 導入段階：マスコミによる紹介

2000－2001年にかけて、収入が増えたことや主体的な消費文化の影響でウェルビングがマスコミにより紹介され始めた。

(2) 拡散段階：食品に対するウェルビングのマーケティング

2002－2003年には、黄砂や狂牛病などの環境災害の影響でウェルビング食が発売された。

(3) 活用段階：様々なウェルビング概念を取り入れた新商品の登場

2004年から現在まで、健康への関心がますます高まり、様々なウェルビング商品が持続的に発売されている。

1.3 他国との比較と韓国のウェルビングの特徴

	欧 米	日 本	韓 国
登 場 時 期	1990年代	1990年代	2000年以降
登 場 背 景	社会運動の拡散と共に生活の中でウェルビング概念を体得	健康ブームの影響	マスコミの影響、及び黄砂、狂牛病などの環境災害の恐れから
社会との関連性	女性の健康と福祉と関連	高齢者、障害者などの福祉と関連	福祉とは関連なし 個人的なウェルビングに集中
ウェルビングの範囲	ヨガ関連の商品、有機農業の食品	健康食品	食品、家電、繊維、建設などの全分野

2. 四象医学における体質と食べ物

2.1 健康な人生と食べ物

韓国には「薬食同源＝食品がすなわち薬である」という言葉があるように「良い食べ物は体の薬になる」という思想がある。昔からこのような思想に基づき、陰陽と気血が補充できる様々な保養食を発達させ、健康と長寿を目的に体質、環境、季節の変化などに合う食べ物を開発して来た。

2.2 体質：体質とは生まれつき持っている特徴

	人口分布	外 見	性 格
小陰人	20%	下半身が肥満型。 尻が大きく、肩が狭い。	やさしく素直な性格。 積極性はあまりなく、推進力が弱い。
小陽人	30%	上半身が肥満型。 胸が成長して豊満である。	正直で、奉仕精神が強い。 気が短く、最後まで達成する力が弱い。
太陰人	50%	体重の減量より運動をした方がいいタイプ。 背が高く、体格がいい。	堅実で落ち着いて行動し、引き受けた仕事は最後までやり遂げる。 保守的であり、変化を好まない。
太陽人	ごく少数	ダイエットしやすいタイプ。 頭が大きく、尻が小さい。	積極的で男性的な性格。 独りよがりです計画性に欠ける。

2.3 体質とそれに合う食べ物

小陰人	<p>① 熱い陽気の多い食べ物が必要。</p> <p>② 暖かい陽性の食べ物を食べた方が良い。冷たい性質の食べ物は避けた方が良い。</p> <p>③ 良い食べ物：サムゲタン、桃、ナツメ、いわし、トウガラシ、キャベツ、たまねぎ、カレーなど。</p> <p>④ 良くない食べ物：冷麺、すいか、アイス、かき氷、豚肉、小麦粉で作った食べ物など。</p>
小陽人	<p>① 冷たい陰気の多い食べ物が必要。</p> <p>② 体内に熱が多く、よく病気にかかるため、熱い食べ物は避けた方が良い。</p> <p>③ 良い食べ物：豚肉、生かき、なまこ、ホヤのような海産物。他にトマト、梨、いちご、すいか、緑茶など。</p> <p>④ 良くない食べ物：トウガラシ、ネギ、ニンニクのような刺激物と鳥肉、はちみつ、朝鮮人参のような熱が多いもの。</p>
太陰人	<p>① どんな食べ物でも食べられる。</p> <p>② 熱い性質、冷たい性質の食べ物の代わりに、普通の性質を持っている食べ物を食べた方が良い。</p> <p>③ 呼吸気管は弱い、消化ができるため、どんな食べ物でもよく食べられる。</p> <p>④ 偏食をせずに色々な食べ物を食べた方が良い。</p>
太陽人	<p>① 珍しい体質である。</p> <p>② 涼しく、あっさりした食べ物を食べた方が良い。</p> <p>③ 良い食べ物：そば、米、ぶどう、さくらんぼなど。</p> <p>④ 良くない食べ物：辛いもの、刺激物、肉など。</p>

3. 伝統的な食べ物：伝統的な食べ物の復活

健康志向主義が広がった今日、伝統的な食べ物への関心も高まっている。そのため現代人の好みに合わせた伝統料理の作り方なども多く紹介されている。韓国の伝統的な食べ物には、ビビンバ、キムチ、冷麺、焼肉などがある。ウェルビングのブームの中で特にビビンバの人気が高まり、最近では若芽野菜で作った若芽ビビンバが流行している。以下に挙げる例が示すように、固有の味でも人気のある食品を現代人の味覚に合わせて応用したものも多い。

伝統的な食べ物の復活例：

- ・ ビビンバの中でも若芽野菜を入れた若芽ビビンバが流行。
- ・ 様々な野菜でキムチが作られている。
- ・ 醬や塩辛など、伝統的な発酵食品が注目されている。
- ・ 清麴醬は今日のウェルビングのブームで最も人気のある食品で、ダイエット食品とし

て丸薬や粉だけではなく、アイスでも食べられている。

4. 現代のウェルビング食の現況

ファーストフード	<p>栄養の不均衡を招き、有害物質のため、肥満も引き起こすと言われてきたファーストフードにもウェルビングの概念が取入れられている。</p> <p>例：ハンバーガー：ライスバーガー、キムチバーガー、サラダとオレンジジュースとのセットメニュー、ピザ（豆腐ピザ、野菜ピザ）</p>
お菓子	<p>アトピーの原因ともされる菓子にもウェルビングのブームがある。</p> <p>例：有機農業の米、黒米など有機農業のお菓子、豆腐お菓子、清麴醬、お菓子</p>
飲み物	<p>フルーツジュースというとオレンジジュースだけであった時とは異なる。</p> <p>梅、トマト、ミカン、にんじんなど種類が多様になった。心臓病や肌の健康、ダイエットに良いザクロジュースは、特に女性に人気がある。糖尿病と肥満の予防に良い酢の飲み物も販売されている。</p>
ブラックフード	<p>黒豆、黒ゴマ、黒米のような黒い食品をブラックフードと言う。</p> <p>これらの食品は老化と心臓病、成人病、ガンの予防など多くの病気を予防すると言われている。</p> <p>例：黒豆牛乳、黒ゴマパン、黒豆アイス、黒豆お菓子、黒ギョーザ、黒豆腐</p>
トマト	<p>アメリカ『TIME』誌の「21世紀最高の食品」に選定されたトマトはガン、慢性病を予防し、また便秘解消の効果もあることから美容にもよいとされている。そして食べ過ぎの抑制、消化促進の作用からダイエット効果の高い食品でもある。さらに認知症の予防と老化防止の効果があるといわれている。</p> <p>例：トマトサラダ、トマトヨーグルト、トマトピザ、トマトかき氷、トマトアイス</p>

〈実 習〉

実習の目的：韓国の食べ物に着目し、日常生活の中でウェルビングを体験する。

24日 11：00－13：00 仁寺洞で韓国の伝統的な料理を食べた。（韓定食体験）

13：00－15：00 景福宮見学

15：00－18：00 韓国のかき氷を食べた後、清溪川見学

日本の美食文化について

—おせち料理を中心に—

田 村 あゆみ

吉 野 まゆみ

1. はじめに

日本の伝統料理としては、本膳料理、精進料理、懐石料理、そしておせち料理などが挙げられる。これらの多くは季節の食材を使い、色彩豊かに美しく盛りつけられている。そこで本研究では、まず日本料理の中でもおせち料理について調べる。そして実習を踏まえ、隣国である韓国の伝統的な料理も日本と同じように色彩豊かなものであるのか、食べ方は日本と同様であるのかを明らかにする。

2. おせち料理

おせち料理は、江戸の粋やユーモアを凝縮した庶民文化から開花したものである。そもその由来は正月の節供料理で、宮中の「お節供（おせちく）」の行事からきている。お節供は文字を見るとわかるように節日に神に供えたもので、宮中では1月1日、7日、3月3日、5月5日、7月7日、9月9日といった節日には神に神饌（しんせん）を供え祭り、宴をひらいていた。このように、おせち料理は宮中のしきたりが民間に広まったものであるが、やがて正月にふるまわれる御馳走だけが「おせち料理」と呼ばれるようになったのである。そしてそれらは、その土地や時代によって変化している。

正式な場において食される日本の伝統料理は四季折々の素材を用い、巧みな包丁使い等で味はもとより見た目の美しさにも拘って作られている。とりわけおせち料理においては、その一品一品に意味が込められている。また、お重に入れることにも意味がある。このようなおせち料理に込められた意味について、以下で説明していく。

2.1 なぜお正月におせち料理を食べるか

お正月に雑煮やおせち料理を年神に供え、家族と一緒に食べるのは新年の「共食」という儀式にあたる。それには、新年に特が身から幸せを分けてもらうという意味が込められている。

2.2 おせち料理のそれぞれの名前に込められた意味

日韓セミナーの発表の際には、黒豆、数の子、海老、昆布巻き、きんとんの5種類の名前の由来を紹介したが、その他にも意味が込められている料理がある。ここでは、上記のもの以外の料理名の由来について説明する。

田作り……………（江戸時代の高級肥料として片口いわしが使われたことから）豊年豊作祈願。

かちぐり……………勝つ。

鯛……………めでたいに通じる語呂合わせ。江戸時代にはじまった七福神信仰とも結びつき、鯛はおめでたい魚として有名。

橙（ダイダイ）……代々に通じる語呂合わせ。子孫が代々繁栄するように。

錦たまご（ニシキタマゴ）

……卵の白味と黄味をわけて、二色でつくった料理の二色（ニシキ）とおめでたく豪華な錦との語呂合わせ。

金平ごぼう……………ごぼう料理が誕生したのは江戸初期。当時、坂田金平武勇伝が浄瑠璃で大ヒットしていた。そこで、豪傑金平にちなんで、この滋養たっぷりのごぼう料理を金平ごぼうと呼ぶようになった。

里芋……………里芋は子芋がいっぱいつくので、子宝にめぐまれるように、の意。

紅白なます……………お祝の水引きをかたどったもの。

紅白かまぼこ……………かまぼこは、はじめは竹輪のような形をしていた。やがて江戸時代、様々な細工かまぼこが作られるようになると、祝儀用としてかかせないものになっていった。紅白のおめでたい彩りから、おせちの定番になったようである。

伊達巻き（ダテマキ）

……「伊達」とは華やかさ、派手さを形容する。華やかでしゃれた卵巻き料理ということで、お正月のお口取り「晴れの料理」として用いられた。語呂合わせや子孫繁栄の祈りというより、色や形からおせち料理に登場するようになったようである。さらに、伊達巻きは、蒲鉾を作る際、つなぎに卵白を使用するが、黄味の部分が余ってしまうので、それを活用するために考えだされたものである。名前については他説があり、和装で使用する「だてまき」に縞模様が似ているから…というのものもある。

2.3 お重詰め

日韓セミナーでは代表的なお重の詰め方として四段重の説明をした。しかし、五段重が基本の形であるという説もある。そこで、五段の場合の詰め方について説明する。

一般的に、一の重が祝肴、二の重が酢の物、三の重が焼き物、与（忌み数字の四をきらってこう書く）の重が煮物、五の重が控えの重とする場合が多いようである。しかし、そ

の土地や家風によって、二の重が焼き物、三の重が煮物、与の重が酢の物としているところもある。また、核家族化した現代では、本格的な五段重のある家庭は少なく三段重が一般的なようである。三段重の詰め方の一例は以下のようなものである。

一の重には口取りと祝肴といった華やかな物を、二の重にはなますやコハダの酢メのような酢の物を、三の重には煮メなど煮物を詰める。

3. おせち料理に込められた意味

現代ではデパート等でおせち料理を購入する家庭も増えている。価格は10,000円代から、高いものでは500,000円代のももあり、その内容も様々である。現代ではおせち料理を食べることが一種の行事となっているが、このようにたくさんの願いが込められた背景には何があるのだろうか。

お重に詰められるものは、地域ごとにも少しずつ異なるが、2.2からわかる通り、おせち料理に使われる食材は、子孫繁栄、長寿、出世、豊作のいずれかへの願いが込められている。現在では、あまりピンとこないような願いも含まれているが、元は神事の折りに神様へ捧げた供物からきているので、このような願いになっていると考えられる。

江戸時代後期から江戸の人々の暮らしが豊かになり、正月の料理も様々なものができたが、おせち料理の意味や謂れに共通しているのは、豊かに暮らせること、一族の繁栄を願うことである。このように、元旦に祝う屠蘇の祝肴（おせち料理）は、無病息災と子孫繁栄の願いを祈ったものである。その願いを食べ物の形や名前の語呂合わせに託してしまうところに、江戸時代後期町人文化のおおらかさ、ユーモアさが感じられる。

4. 考 察

以上、おせち料理についてみてきた。おせち料理には様々な意味が込められていることがわかったが、これらの意味をみていくと、おせち料理が現在のよう形になった頃の時代背景が見えてくると考えられる。たとえば、「豊作」という願いからは日本が昔は農業国だったことが想像される。また、現在では、おせち料理年神に料理を供えて幸せを分けてもらう、ということはあまり聞かないが、このようなことから日本古来の信仰についても知ることができる。

また、韓国では一般的に料理を混ぜて食べると聞く。おせち料理において、あまり混ぜて食べないのはそれぞれに意味が込められているため、願いが叶うように少しずつ大切に食べようとする心理が働いていたのではないか。また、神と共に食べるので、ぐちゃぐちゃに混ぜられたものではなく、見た目が美しいものを捧げようという考えもあったのではないかと考える。

5. 補足（本膳料理の膳について）

今回の発表ではおせち料理に焦点を当てていたため、本膳料理についてはあまり詳しく調べていなかったが、韓国の学生の方から「一の膳、二の膳、三の膳にはそれぞれどのようなものがあるのか？」という質問を受けたので調べてみた。

本膳料理の基礎は、一汁三菜にある。「菜（さい）」は「な」のことであり、副食物のことを指す。一汁三菜の内容は、飯、汁、香の物、なます、煮物、焼物であり、飯と香の物は、数えない。このように見ると、料理の品数が「4品」ということになるが、「4」という文字について、これが「死」と同じ音であることから忌み嫌い、一汁三菜という分割した呼び方にしている。また、菜の数は、かならず奇数である。このことは、日本において、奇数を陽とし、偶数を陰とする思想があり、奇数をめでたいものとすることによる。

一汁三菜、一汁五菜、二汁五菜、三汁七菜など、三汁十五菜までであるが、一汁四菜（偶数の菜）はない。膳の配置は、かならず、まず本膳（一番目に出す膳）を膝前に置き、二の膳（二番目に出す膳）を右側に置き、三の膳（三番目に出す膳）を左側に置く。

型によって多少異なるが、それぞれの膳に何があるかは以下の通りである。

【型 1】一汁三菜

本膳……なます、汁、平、飯、香の物、焼物、取肴、吸物、酒、菓子、薄茶

【型 2】一汁五菜

本膳……なます、汁、坪、飯、香の物、焼物

平、猪口、吸物、台引、酒、菓子、薄茶

【型 3】二汁五菜

本膳……なます、汁、坪、飯、香の物、焼物

二の膳……平、汁、猪口

吸物、台引、酒、菓子、濃茶、後菓子、薄茶

【型 4】三汁七菜

本膳……なます、汁、坪、飯、香の物

二の膳……平、汁、猪口

三の膳……椀、汁、刺身

焼物膳、引き物膳

本膳料理と宴会料理の大きな相違点は、本膳料理が、「飯」と「汁」に重点を置いているのに対して、宴会料理が「酒」に重点を置いていることである。献立も宴会料理では酒に合わせた配列である。

〈参考文献〉

竹内由紀子（2003）『日本の「食」とくらし2』東京学研

芳賀日出男（2006）『学習に役立つわたしたちの年中行事1月』株式会社クレオ

〈参考URL〉

作法心得 <http://hac.cside.com/mannar/>

〈実 習〉

実習の目的：韓国の伝統的な料理を食し、食文化の違いを学ぶ。

24日 11:00-12:00 仁寺洞にて韓定食を体験（韓国の両班らが食べていた料理）

12:00-14:00 国立民俗博物館にて、韓国の伝統的な料理、また食文化について見学

14:00- 路上に点在する屋台等を見学、体験

25日 10:00-13:00 報告会準備

23日の発表で驚いたことは、韓国の学生の方が思っていたよりも日本について多くのことを知っていたことだった。私たちの班は本膳料理について質問されたが、詳しいことはほとんど知らなかったため、日本文化に関する知識の乏しさを痛感した。これを日本文化について学び直す機会にしたいと思う。

2日目の実習では両班の料理を食べたが、おせち料理も元々は宮廷のものということもあり、色彩豊かな点は似ていると思った。国立民俗博物館で展示されていた貴族の料理、庶民の料理も日本のその当時のものとそれほど違いはなかったように感じた。日本の精進料理のようなお寺での肉、魚を使わない料理は韓国にもあり、共通点は多い。しかし、韓定食は品数がとても多いが、おせち料理のようにそれぞれの料理に意味が込められているわけではないようだった。その点は異なりがあると感じた。私たちのグループは、韓国側は健康食、日本側は美食文化ということでテーマが少し異なっていたため、単純に比較することは難しいが、両国とも伝統料理が健康的なものであるとされ、伝統料理を見直そうという動きは共通していると感じた。

報告会においては、チヂミの発祥に関する指摘を受けた。また、混ぜて食べるという韓国文化についても意見を交わした。当初は混ぜて食べるという文化がわからなかったが、韓国で暮らす中で人と人の距離の近さを感じ、それが混ぜて食べるという文化の根底にあるように思った。返し箸などの文化のある日本とはやはり異なる文化だろう。

近年、韓国では健康な食生活に対する認識が高まり、普段からより健康的な食生活をと、料理にも工夫が凝らされていた。日本でも健康食は話題だが、韓国のそれに比べれば表面的で一時的なブームのように感じた。また、日本料理が作れる日本人の若者は少ないように思うが、勧告では韓国両氏の味を母から受け継ぎ、料理ができる若者が大半であった。その他の面でも、自分たちの文化を残したい、相手に伝えたい、理解してほしいという韓国人の思いの強さは様々な場面で見られたように思う。

現地では学べない貴重な体験がたくさんでき、有意義なセミナーになった。

韓 国 の 結 婚

イ・ジョンミン
ムン・ギルヨン
イ・ヨンジュ
ムン・シンウォン
イ・スジョン

1. はじめに

近年、結婚に対する韓国人の考えは10年前に比べ、大きく変わった。その背景には、色々な理由があると考えられるが、今回のセミナーでは、現在の韓国人が持っている結婚に関する認識について調べてみたい。また現代の結婚式を取り上げ、昔の結婚式と比較しながら、現代の結婚式の問題点とこれからの方向について考えていく。

2. 韓国の結婚に関するアンケート「どんな配偶者を望むのか？」

結婚情報会社「ソノウ」会員9462名について、ソウル市立大学リユンソク（都市社会学科）教授が分析した結果、結婚適齢期にある韓国の若者は配偶者を選ぶ際に、学歴、年収、出身校、宗教を最も重要視することがわかった。

このような男性望む!!		このような女性望む!!
4年制大学卒	学 歴	4年制大学卒
33才～35才	年 齢	29才～31才
専門職（法曹界）、事務職	職 業	教育職（教師）
4000万ウォン	年 収	2500万ウォン
出身地域－ソウル地域 順	出 身 校	出身地域－ソウル地域 順
無教－キリスト教	宗 教	無教－キリスト教

3. 結婚適齢期と結婚に関するいろいろ

3.1 未婚男女、自身が思う結婚適齢期は??

未婚男女、自身が思う結婚適齢期は男性が平均30.3才、女性は平均28.4才であった。

区 分	男	女
高 卒	29.6才	28.1才
短大卒	31才	27.9才
大 卒	29.9才	28.1才
大学院卒	30.5才	29.6才
平 均	30.3才	28.4才

3.2 体感 老チヨンガーとオールドミスの年齢は??

男性が考える老チヨンガーの基準は33.5才から、女性が考えるオールドミスの基準は32才からであった。以下の表からも大学院卒業の男性と女性には老チヨンガーとオールドミスの年齢基準に対して一番余裕ある態度を示していることがうかがえる。

区 分	男	女
高 卒	33才	31.4才
短大卒	33.7才	31.2才
大 卒	33才	31.6才
大学院卒	34.3才	33.8才
平 均	33.5才	32才

3.3 結婚に関する認識

結婚に関する認識にも男女の差異は目立っていた。男性は「結婚はいつかしなければならない必須事項である」という項目に過半数以上の58.6%が同意したのに対し、「必須ではなく選択事項である」という項目にはわずか20.7%が同意した。一方、女性は「必須事項である」という項目に49.1%が、「選択事項である」という項目に46.0%が賛同しており、結婚については女性の方がより柔軟な考えを持っていることがわかった。

〈表1－結婚は必須 or 選択〉

区 分	男 (%)	女 (%)	全体 (%)
必須事項	58.6%	49.1%	52.4%
選択事項	20.7%	46.0%	37.1%
わからない	19.0%	5.0%	9.9%
無回答	1.7%	0.0%	0.6%
全 体	100.0%	100.0%	100.0%

＜表 2－結婚は必須だ！なぜ？＞

理 由	男 (%)	女 (%)	全体 (%)
愛する人と暮りたいから	55.9%	48.1%	51.2%
ひとりではさびしいだから	8.8%	34.2%	24.2%
両親のためだから	9.8%	4.4%	6.5%
家の代を続けたいから	13.7%	1.3%	6.2%
みんながすることから	6.9%	5.1%	5.8%
老いたとき頼る所がないから	2.9%	5.7%	4.6%
そ の 他	2.0%	1.3%	1.5%
全 体	100.0%	100.0%	100.0%

3.4 結婚準備過程で一番難しかったのは？

順 位	応答の内容	百 分 率
1	新婚の家を準備すること	34.3%
2	結婚の進物費の決定	15.6%
3	礼式を行う場所の選択	13.7%
4	新婚生活の準備	11.1%
5	結婚の進物の決定	8.6%
6	礼服、メイクアップ	6.7%
7	新婚旅行先の選択	4.4%
8	写真を撮るスタジオ選択	3.2%
9	その他／無回答	2.5%

2005年に結婚した新婦は、結婚準備の全過程で一番難しかったこととして「新婚の家を準備すること」、「結婚の進物費の決定」、「礼式を行う所の選択」、「新婚生活の準備」等を選択した。

4. 結婚したい芸能人 vs 恋愛したい芸能人

4.1 結婚したい芸能人

項目	回答内容	女性回答者数 (392)		回答内容	男性回答者数 (369)	
		回答数	百分率		回答数	百分率
1	パクスホン	79	20.2%	キムテヒ	68	18.4%
2	パクシンヤン	72	18.4%	イヨンエ	62	16.8%
3	イソジン	63	16.1%	ソンユンア	60	16.3%
4	イヒョンウ	56	14.3%	ソンイェジン	50	13.6%
5	ピ	42	10.7%	ジョンジヒョン	48	13.0%
6	チャンドンゴン	38	9.7%	ソンヘギョ	42	11.4%
7	ギムジェドン	36	9.2%	キムジョンウン	40	10.8%
8	ペヨンジュン	36	9.2%	キムハヌル	36	9.8%
9	ゴンサンウ	31	7.9%	ハジオウオン	32	8.7%
10	イドンゴン	26	6.6%	ムングンヨン	24	6.5%
11	ゾインソン	26	6.6%	イヒョリ	20	5.4%
12	チャテヒョン	23	5.9%	ソンユリ	16	4.3%
13	カンドンウオン	20	5.1%	キムヘス	14	3.8%
14	キムレオン	18	4.6%	ハンガイン	14	3.8%
15	シンドンヨップ	18	4.6%	ハンジヘ	14	3.8%
16	ウオンビン	18	4.6%	イナヨン	12	3.3%
17	ユンゲサン	16	4.1%	ハンウンジョン	12	3.3%
	その他/無回答	30	7.7%	その他/無回答	30	8.1%

4.2 恋愛したい芸能人

項目	回答内容	女性回答者数 (392)		回答内容	男性回答者数 (369)	
		回答数	百分率		回答数	百分率
1	ピ	86	21.9%	キムテヒ	78	21.1%
2	ゾインソン	73	18.6%	ジョンジヒョン	70	19.0%
3	ゴンサンウ	69	17.6%	ソンイェジン	56	15.2%
4	カンドンウォン	56	14.3%	ハジウオン	42	11.4%
5	イドンゴン	56	14.3%	イヒヨリ	36	9.8%
6	ウォンビン	47	12.0%	ムングンヨン	34	9.2%
7	パクシンヤン	33	8.4%	ソンヘギョ	32	8.7%
8	チャンドンゴン	32	8.2%	ソンユンア	28	7.6%
9	キムレオン	24	6.1%	ハンイエスル	28	7.6%
10	ヒョンビン	24	6.1%	キムジョンウン	24	6.5%
11	エリック	19	4.8%	ソンユリ	22	6.0%
12	ジョンウソン	19	4.8%	イヨンエ	22	6.0%
13	キムジェドン	14	3.6%	ハンジヘ	20	5.4%
14	パクスホン	14	3.6%	キムハヌル	14	3.8%
15	イソジン	14	3.6%	キムヒソン	14	3.8%
16	ペヨンジュン	12	3.1%	ボア	12	3.3%
17	シンドンヨップ	12	3.1%	ハンウンジョン	12	3.3%
	その他/無回答	23	5.9%	その他/無回答	34	9.2%

5. 現代の結婚式

5.1 場 所

現代の結婚式は一般的に結婚式場で行われる。式の準備、式の進行順序は式場側が全て進めてくれるため、楽に結婚式ができる。信仰する宗教のある人は、その宗教に従い聖堂や教会で結婚式を挙げる。最近ではホテルで盛大に行う結婚式も増えている。

5.2 費 用

〈結婚式場〉

ホールの使用料	300,000
花の飾り	800,000
ペベク使用料	100,000
演奏	250,000
写真とDVD撮影	250,000
お客の食事代(1人当たり)	15,000~30,000

＜ホ テ ル＞

ホールの使用料	300,000～500,000
花の飾り	1,000,000～1,500,000
ペベク使用料	200,000～500,000
演奏	300,000～500,000
写真とDVD撮影	500,000
お客の食事代(1人当たり)	50,000～100,000

全体的な費用は同じぐらいだが、ホテルの方が高めである。費用の面で結婚式場と大きく異なるのは、お客の食事代である。ホテルではコース料理が出るため、値段は式場より高い。

この他、教会や聖堂で行う結婚式は場所の使用料を支払うが、その費用は一般的な結婚式場より安めである。

＜日本との相違点＞

- －司会者：結婚式の全体的な進行をする。普通、新郎の友人の中で話が上手な人が引き受ける。
- －司式：結婚を祝い、これからの結婚生活の幸せを祈る祝辞をする。新郎新婦の先生や周囲の人望のある方に頼む。
- －祝儀金：祝儀金を出す際、日本では慶事には奇数を、弔事には偶数の金額を出す。韓国の場合、ほとんど奇数である。祝儀の金額は人によって相当な開きがある。平均的には5千円から2万円ぐらいであるが、場合により金額が増えることが多い。
- －服装：招待客の服装は新郎と新婦の両親と親戚は韓服（ハンボク）を着る。そのほかの人は主に正装をする。

6. 現代の結婚式でも行われている伝統婚礼の儀式

6.1 ベベク（幣帛）

幣帛とは、韓国人の結婚の儀礼の一つで、式を終えた後、新郎の家や礼式場の幣帛の部屋で新婦が新郎の家族に正式に初対面のあいさつをするために用意して行く特別な食べ物である。

新郎新婦がお辞宜をすると、舅と姑が幣帛用のなつめと「ベベクポ」という干した肉を撫でるのだが、これには「嫁の欠点を見逃してあげる」という意味がある。

なつめ、栗、ぎんなん等は子孫の繁栄、無病長寿、富貴を意味し、干した肉と鶏は新郎の両親に従い、敬うことを意味する。

勿論、地域や家により、食べ物は異なるが、ソウルの場合、ほしじし、なつめ、グゾル

パンの3つが基本となり、これにお酒と鶏をくわえる場合がある。

6.2 ハム

ハムとは、婚礼を控えて新郎の家から新婦の家へ、チェダンという青、紅などのハンボク用の織物とホンソジという書状を入れて送る箱である。

昔は下人等を雇って送ったが、現在では新郎の友人や新郎の近い親族が直接持つて行く。ハムを持つて行く人を「ハムジンアピ」と呼ぶ。ハムは装飾品であり、実用的ではないため、このごろは代わりにかばんを使っている。

6.3 ホンス

ホンスとは、両家が結婚式に際して用意する結婚生活用品とその費用のことである。ハムもホンスの1つで昔は主に木綿を入れたが、16世紀から上流階級の人達の間で派手な青と紅の絹を入れる風習ができ、富貴と長寿の意味を込めて色の糸を入れる風習もできた。

そして綿と米、小豆なども入れて送ったが、これには子供をたくさん産むという意味が込められている。

女性は結婚にあたり、生活に必要な衣服と生活用品を用意したが、これをイエザンという。舅姑と婚家の親戚にあげる衣服はイエダンといった。

最近では、男性が家を用意し、女性が生活用品と家電製品を用意するのが一般的である。

6.4 サジュと吉日

サジュとは、人が生まれた年、月、日、時の干支のことで主に婚姻や運命を占う時に使われる。

縁談がととのったら、新郎の家で新郎のサジュを紙に書いて新婦の家へ送ったのだが、これを「サジュダンザ」と呼ぶ。

サジュをもらった新婦の家では吉日を選んで婚姻の日付を決めて新郎の家へ送り、これによって婚約がまとまる。サジュで人の運命が先天的に決定され、サジュを通じて運命の吉凶を占うことをサジュゾンという。

吉日（旧暦）

1月と7月の5、11、17、23、29日

2月と8月の4、10、16、22、28日

3月と9月の3、9、15、21、27日

4月と10月の2、8、14、20、26日

5月と11月の1、7、13、19、25日

6月と12月の6、12、18、24、晦日

この日は財物を求めればあたえられ、なくしものをしてもしそれは遠くない所にあり、家が穏やかである。また、出かける人も無事であり、患者はすこしずつ良くなる日だと伝えられている。

7. 結 論

現在、韓国の結婚式の費用はだんだん高くなっている。もちろん物価が高くなっていることも一つの理由であろうが、何よりも他人に見せたいという気持ちと商業的になった結婚式の文化が一番の理由であると言えよう。物質より心を重要視した昔に比べ、この頃は結婚をする人も、結婚を祝う人も物質的な事柄をより重要視している。盛大な結婚式も良いが、結婚の本来の意味を考えながら、心から祝福を取り交わす結婚式になるべきではないかと考える。

〈参考文献〉

- チェグワン (2000) 『日本文化の理解』学文社
韓国伝統儀礼研究会 (2005) 『現代家庭儀礼』イルソンメディア
『My wedding 8月号』

〈参考URL〉

- 結婚情報会社 ソンウ <http://www.sunoo.com>

〈実 習〉

実習の目的：韓日の結婚の類似点、相違点について討論し、その両方を実際に体験する。

- | | |
|-----------------|--|
| 24日 11:00~13:00 | ソウルの中核地にある景福宮を訪問。日本の学生は韓国の伝統服であるハンボック（伝統の結婚式用）を着て写真も撮った。 |
| 13:00~15:00 | 歩いてインサドンへ行き、簡単な買い物をしてから、昼食に韓国の伝統的な食べ物であるビビンパップを食べる。 |
| 15:00~16:30 | 韓国の伝統的な喫茶店へ行き、韓国の伝統茶を体験した。お茶を飲みながら交流の時間を持った。その後、本格的な買い物のためにドンデムンへ出発した。 |
| 16:30~18:30 | 韓国で有名なショッピングモール (Hello apm、millioreなど) で買い物をした。 |
| 18:30~20:00 | 大きい本屋に寄り、韓日の結婚を比較するために韓国の結婚情報誌を買った。晩御飯としてキムパップ、トックポキ、ラーメンを食べた。 |
| 25日 11:30~13:00 | 報告会準備 |

結婚について

神野 可奈子
高野 麻未
平原 紀子

1. はじめに

日本の様々なしきたりに目を向けながら、伝統的な結婚式と現代の結婚式について調べてみる。日本の結婚について詳しく調べることによって、日本と韓国の結婚における相違点をみつけ、結婚式という1つの儀式から日本の文化について見ていきたい。

2. 日本の伝統的なしきたり（結納）について

■結納の5つの形式

- ・伝統的な両家往復型
仲人が両家を往復
- ・やや伝統的な往復型
仲人が男性宅から女性宅へ結納品を届け、女性側から受取書を預かり、男性宅に届ける
- ・片道型
仲人が男性宅から女性宅へ結納品を届け、納める
- ・集合型（女性宅または仲人宅）
女性宅（あるいは仲人宅）に両家が集まり、結納品を取り交わす
- ・集合型（式場、ホテル、レストラン、料亭など）
両家が一堂に会して結納品を取り交わす

■結納の品目（関東式9品目）

- ① 御帯料 ② 寿留女（するめ） ③ 友白髪 ④ 末広 ⑤ 熨斗
⑥ 家内喜多留（やなぎだる） ⑦ 子生婦（こんぶ） ⑧ 勝男節（かつおぶし）
⑨ 目録

結納品にはそれぞれ意味が込められているが、漢字からも推測できるようにそれらは全て結婚した2人の生活が豊かになるよう願ったものである。

■結納にかかる費用

特に決まりは無いが、男性の月収2, 3ヵ月分かボーナス一回くらいが妥当である。100万円が基本的なラインで、100万、200万といった切りの良い金額以外は50万、70万など10万の位が奇数になるよう設定する。

上記のようにかなりの出費になるため、現代では結納を行わないカップルも増えている。具体的な数字を出すと、九州・四国・東北では約60%のカップルが結納を行っているが、首都圏では約30%と非常に少なくなっている。全国平均は約50%である。

■結納の日取り

14世紀に中国から伝わった「六曜」に基づいて決められる。

大安…一日中、吉。何をしてもいい日。祝い事に最適。

友引…午前と午後、吉。正午は凶だが、祝い事には最適。

先勝…先んずれば勝つで、午前吉。午後凶。祝い事は午前から始めればいい。

先負…先んずれば負けで、午前凶。午後吉。祝い事は正午以降に始めるといい。

赤口…正午のみ吉。午前と午後凶。祝い事は正午をはさんで行うといい。

仏滅…一日中、凶。何をしても悪い日。祝い事には不適。

一般的に結婚式には大安と友引が好まれるが、仏滅の日は費用が安く、式場も混まないという利点から、最近では気にせず仏滅の日に結婚式を行う人も多い。

3. 現代の日本の結婚式について

3.1 神前結婚式

■神前結婚式の意義

長い人生を共に助け合いながら社会に貢献していくことを神様にお誓いする儀式

■神前結婚式の歴史

日本の神前挙式の形が整えられてきたのは室町時代頃といわれている。しかし、当時は式が各家庭のお座敷で行われていた。神号の掛け軸をかけてお米、お酒などのお供え物をし、その前で神酒をいただいて夫婦の誓いを交わすというものであった。その後、大正天皇の結婚の儀が神社で行われたことから、民間にも広まり、神社でおこなわれる神前結婚式が定着していった。

■神前結婚式の進み方

神前結婚式の進み方

1. 入 場

巫女に先導されて新郎新婦、媒酌人、親族の順番に入場する。本人との関係が深い順に座る。

2. 修祓（しゅうばつ）の儀
齋主によって参列者全員のお祓いが行われる。
3. 祝詞奏上（のりとそうじょう）
齋主によって結婚が神に報告され、新郎新婦の新しい門出を祝う詞が読み上げられる。
4. 三献（さんこん）の儀【三三九度】
新郎新婦が巫女によって注がれた御神酒（おみき）を交互に飲む。杯（さかずき）は大中小の3つで3回行われる。
第1献（小杯）新郎→新婦→新郎
第2献（中杯）新婦→新郎→新婦
第3献（大杯）新婦→新婦→新郎 の順
1杯を3口で飲む（1～2回目は口をつけるだけ、3口目に飲み干す）
5. 誓詞奏上（せいしそうじょう）
新郎新婦が結婚を誓う詞を読み上げる。
6. 玉串奉奠（たまぐしほうてん）
新郎新婦が玉串を神前にささげる。
玉串・・・常緑樹の一種、椿の葉っぱに似ている。
7. 指輪交換
新郎が新婦の指輪を左手薬指にはめ、続けて新婦が新郎の左手薬指にはめる。
8. 親族杯の儀
参列者全員で杯に注がれた御神酒を3口に分けて飲む。
9. 退 場
齋主が式の終了を告げて、参列者が退場する。

■伝統的結婚式の衣装について（和装）

和装の衣装は多くの場合女性は「白無垢」を身に着け、男性は紋付羽織袴を身に着ける。

白無垢の衣装は小物から下着にいたるまですべてを白一色に統一して角隠し、あるいは綿帽子をかぶる。白無垢の俗説としては「嫁ぎ先の家風にあわせてどんな色にも染まる」ということをあらわしているとされているが、神に仕える衣装は白とされていることから、神社で行われる結婚の儀式の衣装は白となったとも言われている。



現代では様々な衣装（ウエディングドレスやカクテルドレス）で神前結婚式を行うカップルも出てきている。伝統的な結婚式といわれる神前結婚式だが、その意義を守りながらも、しきたりに縛られない多様な式が行われている。

3.2 現代的結婚式

■結婚式の重視項目

- ① アットホームなムードになること
- ② 列席者を退屈させないこと
- ③ 自分らしさを表現できること
- ④ 形式にとらわれないこと

このため、一時期「オリジナル婚」などという自分たちの個性を出すことを最重要視し、ゲストは二の次といった結婚式がはやった時期もあったが、最近では、自分たちも楽しみゲストも楽しませるといった「おもてなし婚」が主流になりつつある。

■会 場

- ① ホテル
- ② 一般の結婚式場
- ③ レストラン
- ④ ホテル・結婚式場内のレストラン
- ⑤ ゲストハウス

中でも、ゲストハウスの伸び率は高い。基本的にゲストハウスは邸宅から庭園まで全てを貸し切って結婚式ができるというのが売りであり、他の新郎新婦と鉢合わせするという心配がないため、自宅にゲストを招いたような感覚でアットホームなパーティーをできることが人気の理由である。

■ウエディングドレス

「ボリュームのあるドレスから動きやすいドレスへ」というのが大きなポイントである。これは、ゲストハウス人気によるもので、ゲストとのコミュニケーションを行いやすくするという目的にかなっている。さらに、ウエディングドレスといえば、純白というイメージであるが、黄色人種の肌にあうのはやや黄みがかかった白であるため、現在では日本人により似合うとされるアイボリーのウエディングドレスが増えてきている。

■現代結婚事情

厚生労働省の統計によると、今や4人に1人は「できちゃった婚」である。これを受けて「できちゃった婚」という呼び名から、「おめでた婚」や「ダブルハッピーウエディング」という呼び方に変わってきている。「できちゃった婚」の浸透の証拠に、現在は様々な種類のマタニティードレスからウエディングドレスを選ぶことができ、妊婦である花嫁のためにも短期間で結婚式を準備し、挙式を行えるようになってきている。結婚式を挙げる2人の要望に合わせた実に多様な結婚式が可能になっていることが窺える。

現在は、実に自由な結婚式が行われている。形式にとらわれることなく新郎新婦の希望に合った様々な衣装・プランを組み合わせで自分たち好みの結婚式が行えるのである。一生に一度の舞台である結婚式を自分たちでプロデュースできる時代になってきていると言えるだろう。

4. 考 察

様々なしきたりがあるが、結納や神前結婚式、現代的結婚式においても「共にその後の人生を過ごしていくことを誓う儀式」という意義が守られていれば、そのスタイルはその時々流行や、2人の考えによって変化できる、自由なものである。近代になるにつれて、その傾向は強くなっている。ここから、「様々なものを柔軟に取り入れる」という日本の文化の1つを見て取ることができる。それは今日、結婚式に対して様々な希望を持つ2人のニーズにそった、多様な結婚式が行われていることから窺われる。

〈参考文献〉

- 石川康彦（1994）『ひと目でわかる結納・結婚マナー辞典』主婦の友社p178－181，230－233
岩本真利（2003）『結納・結婚のしきたり』西東社
大輪育子（2005）『結婚の段取りとしきたりがわかる本』成美堂出版
明治記念館資料（2006）『けっこうんぴあ関東版 6－7月合併号』ぴあ株式会社

〈参考URL〉

- ゼクシイトレンド調査2002－2005

〈実 習〉

実習の目的：韓国の伝統的結婚式について学習し、体験する。

- 24日 11：00－13：30 景福宮を見学し、韓国の伝統的な結婚衣装であるハンボクを体験
- 13：30－14：30 国立古宮博物館において、王族の結婚衣装の見学
- 14：30－18：00 ソウル観光をしつつ、グループ内の親交を深める
- 18：00－19：00 ソウル市内の本屋に行き、韓国の結婚雑誌を買い、それを見つ
つ、日本の結婚雑誌との比較をする
- 25日 12：30－14：00 報告会準備



研究発表（日本3）



韓服を着るお茶大の学生

韓国女性の美意識

ハン・ソンイ
キム・ヘソン
キム・ミンヨン
チャン・ウンジョン

1. はじめに

最近の韓国女性の美意識を知るため、韓国女性100名に美意識を問うアンケートを行った。結果、1位はダイエット（36名）、2位は化粧（29名）、3位は衣服（22名）、4位は整形手術（8名）であった。そして内面、学歴という回答は5位（5名）であった。ここから韓国女性の外見に対する強い美意識をうかがうことができる。

健康について発表するグループを考慮して1位のダイエットを除外し、2位以下の化粧、衣服などについて以下、調査の結果をまとめる。

2. 韓国女性の美意識の変化－近代と現代の比較

2.1 近代

近代は西洋の文化を吸収しており、外国女性への憧れ、女性の社会進出の希望、男女平等思想などが叫ばれた時代である。したがって、女性の化粧、ファッション、整形手術もその影響を受けた。化粧は色が濃く、相手に強い印象を与えるものが流行した。ファッションでは男らしさと女らしさが共存する服が好まれた。整形手術の場合は外国人のように深い二重瞼に人気が集まった。

2.2 現代

現代でも近代の背景を受け、外国への憧れからか、堂々とした女性が好まれた。しかし、以前より健康に気を配るようになったこと、また社会進出の成功に伴い、現在では堂々としたスタイルから自然なスタイルがより好まれるようになりつつある。

3. 現代の美意識

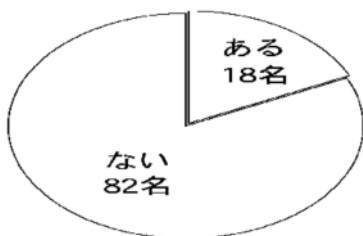
3.1 化粧品

化粧品業界のマーケティングが行ったアンケートの結果から、女性が求める化粧品への希望を窺うことができる。結果は化粧品業界のマーケティングの戦略にも現れている通り、低価格ブランド、市場の高い接近性、年齢によるブランドの多様化の3つである。

3.2 整形手術

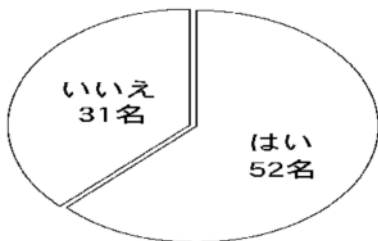
20代の韓国女性100人に行ったアンケート調査を通じて、現在の韓国女性の整形手術に対する考え方がうかがえる。

整形手術をしたことがありますか？



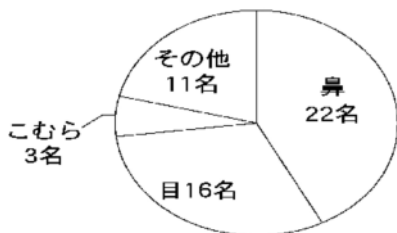
結果を見ると、整形手術をしたことがある人は意外に18人のみであった。調査対象者は少なかったが、マスコミの整形手術に対する扱いが大袈裟であるという印象をもった。

整形手術をしたいですか？



この質問に対する回答は驚くべき結果であった。半数以上の52人が整形手術を希望していた。

手術したい部位はどこですか？



半数をこえる人が鼻や目と答えたことから、このアンケートを通して韓国女性が容姿に対して強い関心を持っていることが再度ここでもうかがえる。

整形手術をどう思うか？という質問に対しては、58人が肯定的、28人が否定的な回答をした。残り14人はどちらでもないという回答をした。どちらでもないという回答した人は整形手術自体には賛成だったが、度が過ぎた手術は良くないという意見だった。一般的には整形手術に肯定的な考えを持ちながらも、自身が手術するとなると恐ろしいと思う傾向があることがうかがわれた。

3.3 ファッション

韓国の食べ物にビビンバがある。ビビンバはそれぞれの味を持ったナムルがご飯と調和して一つの食べ物になったものである。韓国のファッションは世界各国のファッションが調和してひとつのビビンバのようになっている。

3.3.1 アメリカの場合

ハリウッドスターのファッションに見られるスキニージーンズや、映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」により人気の骸骨柄のアイテムが流行している。

3.3.2 ヨーロッパの場合

伝統的な高級ブランドであるプラダ、ルイヴィトンなどがこの例である。

3.3.3 日本の場合

レイヤードファッションやコスプレファッションなどがこの例である。

4. まとめ

グローバル化から、各国女性の美意識もすらっとした体つき、はっきりした目鼻立ちが基準となり、また普遍化している。その現象を一番よく現わしているのが整形手術の割合と関心の増大であろう。

あるミスユニバーサル大会ではこんな言葉まで出た。

「もうこれ以上女性の美しさは神さまがくださる先天的なものではなく、後天的なものだ。」

このように度がすぎた容姿に対する関心は、私たちの心をだめにするのではないか、心配されるが、最近起きているウェルビングは、私たちに希望を与えるのではないだろうか。表面的な美しさだけでなく、健康的な美しさ。それがウェルビングの目標である。これはこれから私たちが進まなければならない美意識を示唆するものではないだろうか。

〈参考文献〉

キムギスク (2002) 『現代のファッション1900-2000』

キムヨンイン (2004) 『韓国女性の色化粧』

〈参考メディア〉

KBS水曜企画「美人は作られる」(2006年7月19日放送)

〈実 習〉

実習の目的：韓国ファッションと化粧を体験する。

- | | | |
|-----|-------------|---|
| 24日 | 10:00-12:00 | 明洞のmiglioreで韓国ファッションを見る。 |
| | 12:00-14:00 | 明洞の様々な化粧品店で化粧品を見る。beauty creditで韓国の化粧を体験。 |
| | 14:00-18:00 | 仁寺洞で韓国服を見る。 |
| | 18:00-20:00 | 東大門のdootaで韓国ファッションを見る。 |
| 25日 | 10:00-13:00 | 報告会準備 |

韓国式の化粧を体験



日本女性の美意識について

－化粧と整形を事例に－

前 田 依利子
宮 川 茉莉子
長 畑 香 織
沖 山 郁 子
吉 田 知 世

1. はじめに

今回の日韓交流セミナーでは、「日本女性の美意識」をテーマに研究した。ねらいは、日本人の化粧と整形に対する意識を通して、日韓女性の美意識を比較していくことにある。

「女性の美意識」はさまざまな場面であらうかがい知ることができる。例えば作法や仕草や人間関係などである。そのなかで特に化粧と整形について扱ったのは、人から見られる美というのが凝縮されたものが顔を変化させることであると考えたからである。また、日本では「韓国では整形は当たり前に行なわれている」と言われている。このようにいわれていることから、私たちは韓国の整形事情やそこに見る美意識について大変興味を持った。

日韓女性がどのように「見られる」ということを意識し「見せて」いるのか、この点を化粧と整形を例に考えていきたい。

2. 化粧に見る日韓女性の美意識

2.1 日本女性の化粧

まず今回お茶大生へとったアンケートから化粧の部分の結果をみていく。

① 化粧のどこに一番気合を入れますか。

－目 49%・肌 32%・まゆ 11%・グロス 2%・チーク 2%・気合は入れない 4%

② 化粧にどのくらい時間をかけますか。

－5分未満 2%・5～10分 13%・10～15分 17%・15～20分 12%・20～25分 8%
30分 2%・30分以上 2%

③ 化粧を始めたのはいつ頃ですか。

－中学生以下 1%・14～15歳 4%・15～16歳 7%・16～17歳 5%・17～18歳 3%
18～19歳 13%・19～20歳 4%・20歳以上 2%

以上の結果から、お茶大生や今の若い女性がどのような価値観で化粧をしているのかをうかがい知ることができる。

注目すべき点は三つある。まず一つ目は、化粧のポイントは「目」と「肌」であることだ。これは言い換えれば、自分を美しく見せるためには「目」「肌」を大きく美しく見せさせなければいいと考えているということである。目を大きくし、そして肌を美しく見せることが日本女性の美意識の根底にあるといえるだろう。二つ目は、化粧にかかる時間が10分程度ということだ。この時間を短いと捉えるか長いと捉えるかは別として、10分ではそのほとんどを「目」につき込まなければならないということが予想できる。そして最後に三つ目は、化粧を始めたのが、15歳と18歳に多いということだ。これは高校と大学入学時である。ここに化粧の果たす大きな役割をみるができる。化粧の果たす役割は、他者に自分を美しくみせるほかにもう一つ、それまでの自分を捨て、自分自身を変化させ生まれ変わらせるという役割があると考えられる。単に人に美しくみせるだけではなく、自分自身の変化したい欲求の表れとして化粧という手段をとるという現代の日本女性の美意識の一端を見ることができる。

2.2 韓国女性の化粧

“自分の美を現すためにどんなことをしているのか”というアンケートに対して、1位はダイエット、2位は化粧、3位は衣服、4位は整形手術、とう結果が出ていた。このなかで、グループはダイエット以外の項目に注目した。

まず、化粧であるが、化粧への関心の高さの理由は、容姿に対する関心の高まりとともに、化粧品業界のマーケティング戦略もあるという。低価格、高品質ブランドのリリース、市場への高い接近性、年齢によるニーズに答えるブランドの多様化などが化粧品業界の動きだそうだ。化粧の傾向としては、濃いメイクからナチュラルなものへと変化している。

次に整形手術である。整形手術をしたことがある女性はアンケートによれば約2割いるという。整形手術をしてみたい女性は7割近くにのぼっていた。以前は欧米女性のような、はっきりした目鼻立ちを希望する女性が多かったが、最近は韓国女性に似合う容姿を希望する女性が増えてきた、とのことである。

最後にファッションであるが、韓国のファッションは、世界各国のファッションが調和して、ビビンバのようになったものだという。欧米から、日本から、様々な国のファッション要素を取り入れている、ということだ。

最後に、美意識の高まりは、度を過ぎると、私達の心をだめにする。表面的な美しさだけでなく、全体的に健康なうつくしさを求めるべきであると、警鐘をならしていた。

2.3 両者の比較・考察

日本と韓国の女性の美意識を比較して気づいたことは、韓国の女性の方が、より自分自身の持って生まれた自然な美しさを大切にしているということだ。私たちは韓国に行く前までは、韓国の女性は整形に抵抗がないと聞いていたし、元的美しさとは違う、創られた

美しさが多いのかと思っていた。しかし実際に韓国の女性と接してみると化粧品はナチュラルなものが多く、日本ほど眉毛をいじったり目を大きく見せようとしたりしていないことがわかった。整形も目を強調したりするのではなく、あくまで自分の顔立ちにあった範囲で自然な範囲でのものだった。日本は整形への偏見などは多いものの、やはり目や鼻を強調しようという傾向が強いように感じられる。日本人女性の方が、韓国人女性よりも欧米の女性へのあこがれが強く、より目を大きく見せよう、肌をきれいに見せよう、鼻が高く見られたいといった願望が強いと感じた。

また、日本と韓国の化粧品の値段の違いにも驚いた。韓国は街を歩けばたくさんのコスメショップがあり、幅広い年齢の女性が気軽に化粧品を見比べる楽しさが溢れていた。しかし日本では「低価格で低品質」のブランドか、「高価格で高品質」のブランドに大きく分類される傾向がある。ドラッグストアなどで売られている化粧品と、高級百貨店で売られている化粧品では、全くその価値が変わってくる。さらに高級な化粧品は、あまり私たちの年代の人が気軽に入れる雰囲気ではなく、少し身構えてしまうのも事実である。値段にしる、雰囲気にしる、店員のサービスにしる、韓国のコスメショップの方がより若い女の子たちがより化粧品に接しやすい環境を創っており、ぜひ日本にも取り入れてほしいと思った。

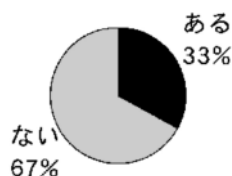
もちろん日本と韓国の中で流行っているものは違い、お互いが目指すものにも多少のズレがあるため、一概にどちらの文化が進んでいるとは言えない。しかし今回の韓国の研修で、日本人が見習うべきところも多く、これから日本と韓国のお互いの文化がふれあうことで、お互いがより一層お互いを高め合えるようになればいいと思った。そして、それは表面的な美しさだけではなく、お互いのもつ内面的な美しさまでも知っていけるようになることが本当に望まれる文化交流であると思った。

3. 整形に見る日韓女性の美意識

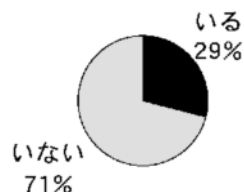
3.1 日本の整形事情

今回私たちが行った、お茶大生へのアンケート結果をもとにまとめる。

整形に興味がありますか？



身近に整形をした人がいますか？

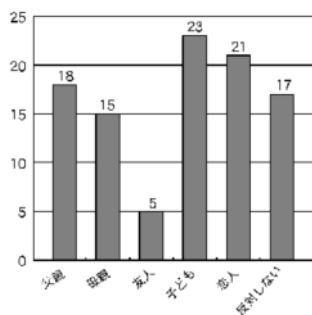


整形に興味がある人、身近に整形をした人はともに約3割を占めている。これは、思っていたよりも高い割合だった。

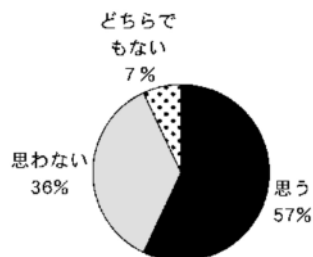
次に「もしお金があったらどこを直したいですか？」と質問したところ、体では脚・胸・お腹、顔では歯・目・鼻の順に回答が出た。これらにコンプレックスを感じている人が多いようだ。ここで歯という回答が出たが、これは歯並びなどの矯正を指している。

また、「整形とは何を指すか」を聞いたところ、外科的手術と答える人が圧倒的に多く、抵抗を感じるものも外科的手術だった。矯正と整形の区別は曖昧な点があるが、多くの人が、歯科矯正は美容整形とは思っていないようだ。また、自分で手軽に二重まぶたを作れるアイプチや、体のラインを整えるダイエットやエステ、脱毛なども整形とみなさない人がほとんどだった。これらのことから、整形と聞いて一般的にイメージされるのは、メスを使った外科的手術であるといえるだろう。

相手が美容整形をしたら反対しますか？



美容整形していてもきれい（カッコいい）人は素敵だと思いますか？



これらのアンケートの結果から、整形に興味があったり、整形をしている人を肯定的に見たりする傾向はあるものの、自分や身近な家族などがすることになると、まだまだ抵抗を示す人が多いことが伺える。

美容整形に対するイメージを問う質問では、「整形することで、本人が明るく過ごすことができるならいいと思う」という意見とともに、「自分の顔や体にメスを入れることに抵抗がある」「失敗したら怖い」「くせになりそう」などといった恐怖感も伺えた。日本では、整形手術の話はまだタブー視されているように思う。整形をしたことを人に話したりすることはほとんどないし、整形するとしてもこっそりと隠れてするイメージがある。実際は、日本でも美容整形をする人は増えているようだが、このように整形したことを「隠す」ことに日韓の意識の違いがあるように思う。韓国では、整形したことを公表している芸能人も多いということを知り、驚いた。整形をしたことを友達同士で気軽に話したりしている人が身近にも多く、オープンに話せるという点で、整形というものに対する後ろめたさや恐怖感が韓国では少ないように感じた。

3.2 両者の比較・考察

整形とは、美意識に基づく人体の見た目の改善を目指す、形成外科の一手術のことである。日本でも近年この美容的手術が施されてきており、一定の実績とノウハウがあるが、

やはりまだ抵抗があるようだ。それはお茶大生を対象とした美容整形についてのアンケートからも分かる。興味がないというわけではないが、やはり外科的な手術をするという点や、経済的な負担が大きいという点、さらに親や先祖への罪悪感が生じるという返答もあった。

一方、韓国では整形手術に対する考えが日本とは少し相違しているということが分かった。韓国では整形手術をしている、していないにかかわらず、整形に抵抗が少ないようだ。実際セミナー参加者の中にも何人かの学生は整形手術を経験していたし、整形をしてみたいという学生が多数だった。このように整形に対する考え方は両国で違いが見られる。

しかし、整形手術で改善したいと思うからだの部分はどこかという質問では、日本と韓国ではほぼ同じ答えが返ってきた。目を二重にしたい、鼻を高くしたいという答えや、豊胸手術や脂肪吸引という答えが飛びぬけて多いことが共通していた。日本でも韓国でも、顔は鼻が高く目がパッチリした、痩せ型の女性が美しいとされているということが分かる。

ただ、整形に対する意識には、両国で違いがあるように感じた。日本でもプチ整形などの認知度・利用度は高まっているものの、まだ一般的には、整形よりも化粧できれいに見せようとする傾向が強いようだ。

4. 考 察

以上、日韓女性の美意識を化粧と整形を例に見てきた。今回わかったことは、美意識には単に美しくなりたいという女性の願望に加えて、根本的に何をもって美とするか、またそれをどのように他人に示すかという人間関係の作り方も密接に関係しているということだ。たとえば、表面的には目が大きく鼻が高い人が共通して美しいと考えられているし、そうなりたいと思って整形する人が日本にも韓国にも多い。しかし根本的な美については差も多く見られた。日本では控えめでおしとやかな女性が美しいとされ、韓国では意志の強くはっきりとした女性が美しいとされる。このようにいくら表面的な美については共通点が多くても、根本的な美しさについてはまったく違う価値観を持っているのだ。また、整形をどのように他人に伝えるかについても日韓で非常に意見が分かれた。整形の浸透具合は日韓で差はないのにもかかわらず、このようにあまり抵抗がなく他人に言うことができるのはなぜだろうか。それはおそらく人間関係が日本より密接であることが関係しているのだろう。

このように、単に美意識といってもその背景には美意識を超えて日韓でまったく異なる文化が存在していることがわかった。これはこのようにセミナーに参加しホームステイをして、韓国の皆さんと密接な人間関係を作らなければわからなかったことだ。

最後に、温かく私達を迎えてくださり、共にかげがえのない時間を過ごさせてくださった韓国のみなさんにこの場をかりて感謝の意を表明したい。

〈参考文献〉

小学館CanCam編集部（2006）『CanCamキャンキャン7月号』小学館

松井達也（2005）『Q&A整形外科100の常識 専門医からのアドバイス』文芸社

宮淑子（1991）『美の鎖 エステ・整形で何が起きているのか』汐文社

〈実 習〉

実習の目的：韓国の化粧品店や流行の発信地を回り、日本との違いについて体験する。



□化粧品店Beauty Creditにて(明洞)□

店先にパラソルを立て、無料のメイクコーナーを作っている。30分以上かけて丁寧にメイクをしてくれた。カミソリを使って眉まで整えてくれるのにはびっくり！日本のブランド化粧品売り場なら、メイク用品を買わずに去ることはできないような待遇だった。最後にはサンプルまでくれるサービスぶり。



□化粧品店Etude Houseにて(明洞)□

お姫様のお城をイメージした店構えになっている。一階は化粧品売り場、二階はお姫様のお部屋、三階はメイクコーナー（写真右）になっていて、店にある様々なメイク用品を試すことができる。店全体がかわいらしいピンク基調で、単にコスメを売るだけでなく女の子たちが楽しめる空間作りが工夫されている。

店に入ると「いらっしゃいませ、お姫様！」と客を出迎えてくれる。



□明洞のメイン通り□

有名なコスメショップが軒を連ねている。ほとんどが若い女の子向けで、安価で質のよい化粧品を手に入れることができる。

ただし、化粧品店にとっては激戦区でもある。サンプルを配ったり、無料のメイクコーナーを作ったり、かわいい衣装を着た売り子が店前で呼び込みをしたりと、それぞれが様々な工夫をこらして客寄せをしていた。



□仁寺洞のカフェで一休み□

コーヒーが一杯6000ウォンもしたのには驚いた。日本と同じ位の値段だが、韓国の安さに慣れてくると、とても高いと感じてしまう。スターバックスと並び、最近人気の店だそう。

楽しくおしゃべりをしながら、化粧、ファッション、恋愛などお互いの大学生生活事情を知ることができた。



□東大門のファッションビル□

日本に比べ1つ1つのお店の売り場が小さく、たくさんの店舗が入っていることが特徴的。発表にもあったように、服のテイストは様々で、色々なタイプの店が並んでいるのは日本と同じだった。

しかし、一フロアに小さな店がひしめき合っている様子は、東大門や梨大前にあるような市場がそのままビルに収まっているようで、韓国らしさを感じた。「完璧な偽モノあるよ～」と堂々と偽ブランド品を売っている店があることに驚いたが、市場がそのままビルに入ってきたという印象をますます強くさせた。上のフロアには広々とした売り場をもつ高級ブランド店も入っており、まさに‘ビビンバ’という言葉がぴったりの建物だと思った。

韓国のミュージカル

一名声皇后、地下鉄1号線、ナンター

박소영 (パク・ソヨン)

박유현 (パク・ユヒョン)

안지선 (アン・ジソン)

박수정 (パク・スジョン)

도라지 (ト・ラジ)

1. 韓国のミュージカル

ミュージカルは、今日の韓国で最も大衆的な音楽劇である。現在、韓国で上演されているミュージカルはイギリスのオペラ風のもの、アメリカのブロードウェイミュージカルのようなダンスに比重を置いたもの、小劇場を中心に外国作品を翻案したもの（劇団ハクジョンの「地下鉄1号線」がその代表的な例である）の3つに分けられる。韓国で公演されているミュージカルには、作品の芸術性と実験性が高いアメリカのオフブロードウェイ（Off Broadway）ミュージカルの類のものはほとんど見られない。ミュージカルブームは1994、1995年から起きたが、80年代の半ばにその兆しがあった。「Guys and dolls -野郎どもと女たち」がヒットし、「Gospel」、「Cabaret」、「Pippin」、「Cats-キャッツ」など、劇団ミンジュン（民衆）、デジュン（大衆）、クァンジャン（広場）などが中心となり、西欧の代表的なミュージカル作品が韓国でもヒットした。1991、1992年以降、「ナンセンス」、「Cats-キャッツ」、「Chorus line-コーラスライン」などブロードウェイのヒット作を翻訳した作品が公演され、ミュージカルの人気徐徐に高まっていった。また、この時期に日本のミュージカル劇団が「Jesus Christ superstar-イエスキリストスーパースター」という作品で韓国の国立劇場の舞台で初めて公演を行ったことも注目に値する。

94年のミュージカルブームは、「ホンドヤウジマラ」に始まり「Jesus Christ superstar」、「Grease rock' roll-グリズロックンロール」、「最後の踊りを私と一緒に」、「Chorus line-コーラスライン」と続いた。93年末に上演された「番地のない居酒屋」は中高年を対象にした点が注目すべき点である。またミュージカルは大体12-1月の年末年始、7-8月の夏休みに公演される。若者に比べ、比較的ミュージカルに触れる機会が少ないとされる中高年の観客を攻略した新派劇は99年夏にも「アリラン」、「行きなさい三八線」などの作品を上演した。ナウンギュの生涯を扱った「アリラン」では北朝鮮出身の美人女優キムヒェョンを看板スターとして上演し、「行きなさい三八線」ではトロット歌手チュヒョンメが主

演し、観客の涙をそそった。

2. 韓国創作ミュージカルの歴史

1966年のイエグリン楽団「サルチャギオブソイエ」から韓国の創作ミュージカルの基礎ができた。特に「サルチャギオブソイエ」の歌は代表的なミュージカルナンバーとして今日でも愛唱されている。その後70年代にも「海よ、言いなさい」、「派手な傘下」、「紙で鳴らしなさい」、「お嫁入りの日」、「青木」、「太陽のように」などが上演された。そして80年代からは創作ミュージカルではなく、ブロードウェイの有名なミュージカルを上演するようになった。しかし80年代末から再び創作活動が行われ、ソウル芸術団（クイエグリン楽団）の「トンスェッになって帰って来る」、「漢江は流れる」などが登場した。

90年代には多くの劇団が創作活動を行った。創作ミュージカルではソウルミュージカルカンパニーの「愛は雨に乗って」、「ショウコメディー」、「エイコムの「明成皇后」、「冬の旅人」、「スターになるの」などがある。そして最近ではシェークスピアの原作を現代風に改作した「台風」と韓国的な素材を取り入れた「黄狗も」などがある。

3. 代表的な作品

3.1 明成皇后

3.1.1 概要

「明成皇后」は1995年の閔妃弑逆100周年記念に上演され、韓国ミュージカルのレベルを上げた作品として1997年にニューヨーク公演もされた作品である。「明成皇后」はリムヨルの戯曲「キツネ狩り（여우사냥 ヨウサニャン）」を元に製作された作品で19世紀後半から20世紀前半までの韓国を背景に第二次世界大戦が連合国の勝利に終わる1945年から遡り、高宗が王になった1864年に起きた一連の事件をドキュメンタリーのように紹介している。二時間半の上演時間で総二幕13場からなるオペラミュージカルであり、最後まで音楽中心の構成である。朗誦調のレシテイティブとアリア、様々なアンサンブル、合唱などが均等に配置されたオペラ的なミュージカルで、巨大な自然の音を席捲するように西洋の鐘だけではなく鉦とどら、太鼓、つづみなど4つの民俗打楽器の音色も活用している。打楽器のみのリズムを背景に踊りが舞台を席捲する場面は素晴らしいとされている。

3.1.2 企画意図

このミュージカルのテーマは「明成皇后という人物の歴史的再評価」である。閔妃は「貧しい家に生まれ、政治を思うままに動かし国を潰した女性」と歪曲されている側面もある。歴史を正しく伝える意図から『キツネ狩り（여우사냥 ヨウサニャン）』という小説が生まれ、閔妃の既存の認識から脱却すべく、強く賢い女性が国の将来を

心配し、国民を愛したという多角的な視点で描いた。

3.1.3 特 性

韓国的な舞台背景と照明の色合い、俳優の衣装は、韓国国内の観客をも新鮮かつ魅力的な舞台としてひきつけ、海外では東洋の神秘的なイメージを創造したと評価された。また、3時間の舞台で59曲もの楽曲が使用され、場面転換も28回あった。さらに800余りの華麗な衣装で韓国の宮中文化と庶民文化の特徴を出した。これらの要素から「明成皇后」という作品が観客から好評を得た。

3.1.4 舞踊的な側面

文化産業的な側面において、商品の差別化はほかの商品にない楽しみを消費者たちに提供することにあるだろう。「明成皇后」では、受胎の巫女の祈り儀式をする舞踊の場面が一番印象的であるとされている。儀式という状況設定は、現代を生きる観客、つまり消費者にとっては見慣れない光景であろう。儀式を舞台にした作品はあったが、「明成皇后」のように踊りと音楽、衣装、すべてが芸術である作品を見つけるのは容易ではない。また、国際的な市場では民俗的なイメージが期待される。外国人が日本の舞台公演において、最も日本的なものを求めることは自明のことである。東洋のシャーマニズムに慣れない外国人にとって巫女の踊りが魅力的である理由がまさにここにある。

3.1.5 国内の講演文化の活性化と海外進出

「明成皇后」は1997年に初めてニューヨークのブロードウェイの舞台に挑戦するにあたり、韓国ミュージカルの活性化と海外進出の基盤を準備した。その結果、ニューヨークリンカンセンターへの進出では、「拍手喝采である」と『ニューヨークタイムズ』からレビューを受け、チケットは売り切れ、立見席の発売記録を立てた。そして『ニューヨークタイムズ』からも「どの国籍の観客も十分に感動する」という評価を受けた。2002年「明成皇后」はロンドンウエストエンドにも進出し、「勇敢な挑戦」（『The Times』）、「世界水準」（『The Stage』）などの評価を受けた。「明成皇后」は、現在まで韓国ミュージカルの発展を牽引する役割を果たしている。2006年5月までに694回上映され、韓国国内外でミュージカル「明成皇后」を観覧した人は92万人にものぼる。

3.2 地下鉄1号線

3.2.1 韓国ミュージカルの代表的ロックミュージカル

「地下鉄1号線」は、外国の原作を韓国に合わせて翻案した作品の中で、最も成功した作品である。「明成皇后」がオペラ的なミュージカルなら、「地下鉄1号線」はロックミュージカルと言える。この作品はドイツのグリップス劇団が1986年の初演以来世界各地で成功を取めている作品であり、韓国ではキムミンギ翻案、演出で初演され

た。

「地下鉄1号線」は20-30代の若い層はもちろん、中高年層に至るまで、広い世代から共感を得てきた。最近では日本人の観客を誘致することにも成功した。外国作品を韓国での公演を実現させた上に、観客を確保できる数少ない作品中の一つであり、躍動的なライブ演奏と役を消化する俳優の演技、早い場面転換などで、韓国ミュージカルの新しい領域を開拓した。また、外国人のために小劇場という空間的な限界を乗り越えて、初めて英語字幕も設置した。これは韓国民俗村、伝統公演、仁寺洞など限定された韓国文化にしか接する機会のない外国人観光客と在韓外国人に大学路のロックミュージカル「地下鉄1号線」は新しい韓国の姿を提供している。観覧したくても言語の問題で近付けなかった韓国ミュージカルと接することができるようにしたのである。「地下鉄1号線」の英語字幕は、大学路に新しい風を起こすことができると期待されている。

3.2.2 企画意図

この作品は、白頭山で幼いころに恋した韓国の男を捜して、中国の延辺からソウルにきた少女が一日、地下鉄1号線とその周辺で会うソウルの人の姿を描いている。失職した家長、家出少女、当たり屋、雑商人、似以非伝道師など、私たちの周りで見かける様々な人々の姿を通じて、韓国の現代社会を諷刺し、滑稽に表現した。

3.2.3 世界に向けた疾走

94年5月14日の初演以来、2000年2月6日には公演回数1000回をむかえた。「地下鉄1号線」はライブバンド・小劇場長期公演、多様な映像を活用したマルチメディア演出などにおいて、韓国ミュージカル界に新たな転機を与えた。また、この作品は韓国の情緒と韓国語の調子、リズムが生きる韓国ミュージカルを目指した劇団ハクチョンの絶え間ない試みと努力が実ったもので、今日では、韓国ミュージカルの入門的作品として認識されている。原作であるドイツ版が1986年の初演から936回の公演であるのに対し、韓国版の「地下鉄1号線」はドイツ版より先に1000回公演を突破する記録を打ち立てた。

また2001年4月のドイツ・ベルリン公演、10月の中国・北京及び上海公演、11月の日本・東京、大阪、福岡公演を通じて、現地の世論と評壇から絶賛を受け、世界公演を担当する者の視線を集めた。2003年3月にはアジア屈指の芸術祭である香港アートフェスティバルに韓国演劇・ミュージカルとして初めて、それと同時に海外招請作の中で唯一のアジア作品として招請され、全回のチケットが売り切れるほどの関心を集め、成功をおさめた。2003年11月の「地下鉄1号線」2000回公演は韓国ミュージカル界の歴史のみならず、韓独文化交流史、そしてドイツ演劇史に大きな功績を残すという評価を受けた。

3.3 ナンタ

3.3.1 パフォーマンスとしての「ナンタ」

「ナンタ」は1997年「ノンバーバル・パフォーマンス」という名前で初演された。ナンタはパフォーマンスという要素以外に、演劇的な要素と音楽的な要素占める比重によってミュージカルに分類されることもある。ナンタは、すべての場面において台詞がなく、身振りと表情、声、たたく行為、たたく行為から始まる音とリズムで成り立っている。ナンタの羅列される各エピソードは「騒動」そのものである。このような「騒動」に表現できるナンタの公演は既存の演劇形式から脱皮し、観客を偶然性と即興性の世界へ誘導するという点で「パフォーマンス」になるのである。

3.3.2 演劇的な要素

(1) 観客

既存の演劇では、日常の再現を目標とし、それを見守る観客は再現される劇中状況に同和され、伝達される意味を受けとっていく。しかし、パフォーマンスでは観客が公演に直接参加することで主体と客体の分離がなくなる。

ナンタは俳優が客席に移動することで、行動範囲が拡張する。初めに俳優が自分の役を果たすことで行動範囲を舞台の下、客席に広げていく。そして観客にとって食べ物を味あわせたり、特定の観客を照明で照らしたりしていく。このように観客は自分が舞台と分離した立場ではないことに気づく。

(2) 話

ナンタには公演の中心となる「話」がある。これがナンタの誰にでも易しく近付ける大衆性を持つ重要な要素になる。しかし、この「話」は戯曲を基礎にした演劇に比べ、ストーリーが非常に単純である。

ナンタのストーリーは「台所で起こること」という簡単な設定で始まり、徐々に具体化された。修正が繰り返され、結婚披露宴で苦い食べ物を準備するという状況において、いくつものエピソードができ、劇が構成された。その結果、観客は話の流れに注意を奪われずに、エピソード内の行為に集中することができるようになったのである。

(3) 人物

ナンタに登場する人物は非常に典型的である。登場人物は5人で、具体的な名前を持たない。登場人物はみな、身分や階層、職業を表す人物である。すなわち、個人性は持たないが、名前で社会的な情報を伝達してくれる人物である。人物の身分とそれに関係することで発生する違和感も戯画化されることで解消される。各階層に属した人々の間にはエピソード毎に葛藤、命令と服従という問題が存在するが、各人物が見せてくれる喜劇性はその葛藤を解きながら和らげてくれる。

3.3.3 独創的な要素

(1) 打 楽

打楽は乱打の核心的な要素である。打楽はリズムがその原理である。叩く、振る、搔く、揉むことで音を出す打楽は、リズムを通じてエネルギー、注意を集中させる。打楽による情緒の発生と変化は「ノンバーバル・パフォーマンス」において場内を一つに集中、交感させる重要な役目を果たす。

(2) 韓国の伝統的な要素の投入

韓国には世界的に独創性を認めるサムルノリのリズムがある。これは世界市場に近付けるものであると共に、韓国の伝統的なリズムを現代の公演に結び付けるものである。韓国の伝統楽器とそのリズムは長い歳月にわたり、韓国人の生と情緒にある静寂な情緒を動的に解いてきた。サムルノリのリズムの起用は、韓国人の基本的な情緒を刺激し、私たちの中に眠っている「身命（シンミョン）」の本質を無意識的に教えてくれる。

4. 韓国ミュージカルの展望

大きな舞台で行う大作ではないとしても、完成度が高く、大衆的な作品であればいくらかでも成功することができる。また、長期公演を行いながら、作品を磨き続けて完成度を高めることもできる。そして原作が外国作品だとしてもその構造的フレームのみを活用して内容を韓国的なものにすることができれば、韓国社会の現実を反映させる作品になることがわかった。

「明成皇后」は大型オペラのミュージカルとして素材や完成度において韓国を代表するミュージカルといっても過言ではない作品である。また、韓国の情緒と韓国語の歌詞がいきる韓国的ロックミュージカル「地下鉄1号線」は小劇場ミュージカルのモデルを提示する現代の韓国の代表的なミュージカルと言える。そして「ナンタ」のような非言語的ミュージカルの可能性も期待できる。

〈実 習〉

実習の目的：韓国ミュージカル経験する

24日	13：00－17：00	弘益大学周辺のギャラリーを見る
	17：00－19：00	夕ご飯
	19：00－22：00	ミュージカル「地下鉄1号線」を鑑賞
25日	12：00－14：00	報告会準備

日本のミュージカル事情

—宝塚歌劇団を中心に—

秋 山 美 優
浅 野 真理子
野 呂 順 子

1. はじめに

昨秋、宝塚歌劇団は、日韓国交正常化40周年を記念し、日韓議員連盟・韓日議員連盟からの要請、大韓民国文化観光部からの招聘を受けて、韓国・ソウルで公演を行った。宝塚歌劇団といえば、出演者はすべて女性だけで構成されているという、世界でもあまり類をみないミュージカル劇団として日本では知られており、演劇界でも高い評価を受けることがある。この宝塚歌劇団の公演は、韓国の人たちの目にはどのように映ったのだろうか。また、日本には宝塚歌劇団、劇団四季や東宝株式会社のようにミュージカルを興行している多くの劇団・会社があるが、韓国にもあるのだろうかという疑問を持ち、日本のミュージカルについて、宝塚歌劇団を中心に見直してみることにした。

2. 日本のミュージカル

ミュージカルの原型は、パリで演じられていたオペランコミックであり、『天国と地獄』を作曲したジャック・オッフエンバックに影響を受けたヨハン・シュトラウス2世が、ウィーンでオペレッタ（ウィンナ・オペレッタ）を発展させ、それがベルリンオペレッタで近代化し、さらにハーバート、フリムル、ロンバーグらがアメリカに持ち込んでニューオーリンズで行われていたショーとなり誕生したと言われる。現在、ミュージカルの本場とされているのは、ニューヨークのブロードウェイやロンドンのウエストエンドである。日本でもミュージカルは根強い人気を得ている。日本のミュージカルの主要な位置を占めているのは、東宝株式会社、劇団四季、宝塚の3つである。

2.1 東宝ミュージカル

映画やミュージカルの製作配給および興行会社であるが、直属の劇団はなく、宝塚引退後、独立して活躍する女優や俳優をそれぞれの舞台に合わせて、選抜している。1963年に日本で初めて上映されたブロードウェイミュージカル『マイ・フェア・レディ』をプロデ

ユースしたのも東宝グループである。東宝の手がける代表作品としては『サウンド・オブ・ミュージック』『王様と私』『屋根の上のヴァイオリン弾き』『ラ・マンチャの男』が挙げられる。また、『風と共に去りぬ』や『ローマの休日』などの映画の舞台ミュージカル化にも力を入れ、オリジナル作品を作り出している。

2.2 劇団四季

劇団四季は年間約3,000ステージを上映し、俳優、スタッフ700名以上を有する日本最大規模の劇団である。1952年（昭和28年）7月14日に創立され、1954年にはフランス演劇上映の劇団としてスタートしたが、安定した集客力をもつ高いレベルの芝居を上演することで、芝居だけで劇団員が生活できる経営を目指すようになっていく。ブロードウェイやウエストエンドなどのホットなヒット作の翻訳上映の他、浅野慶太代表自ら指揮をとって誕生させたオリジナルミュージカルも上映している。日本の劇場は月単位契約のために大ヒットを重ねてもどうしても収益が限られてしまうため、劇団四季は四季専用の劇場を得ることを模索しはじめ、1983年に西新宿の空き地にテント張りの仮設劇場を設けて、『CATS』のロングラン公演に踏み切り、大成功を収めた。また、子供のためのミュージカルにも力を入れ、『ミュージカル李香蘭』『ウェストサイド物語』『コーラス・ライン』『オペラ座の怪人』『美女と野獣』『ライオンキング』なども上映している。

2.3 宝塚歌劇団

宝塚歌劇団は未婚の女性だけからなる劇団であり、団員はすべて付属の「宝塚音楽学校」で予科、本科を合わせた2年間の教育を受けることになっている。花組、月組、雪組、星組、宙組の五組が交代で45日間の公演を年に8回行っている。創始者小林一三が1913年に結成した宝塚唱歌隊が前身であり、1914年少女歌劇団となり宝塚新温泉で初演を行った。『ベルサイユのバラ』の舞台化の成功によって脚光を浴び、多くの女性が宝塚歌劇に憧れるようになった。1945年以降の数年間には、公募により男子研究生が少数ながら立て続けに入団し、数年間のレッスンを経て、デビューを目指したが、女子研究生やファンらの反対により、最後まで本公演には出演することなく、1952年をもって解散したとされる。当初、劇団員の芸名は「あまつおとめ」など百人一首にちなんだものがつけられていたが、ネタが尽きたため百人一首に固執せず、現在では劇団員が自分で自由につけている。主演は必ず各組のトップスターが務める。『ベルサイユのバラ』『風と共に去りぬ』『うたかたの恋』『ファントム』などの作品は、繰り返し上演されている。

3. 宝塚歌劇団の歴史

宝塚歌劇団は、今年で92周年を迎える。宝塚歌劇団がどのように生まれ、どのような道を辿ってきたのかを調べた。

1913年 小林一三氏が「宝塚唱歌隊」をつくる。

- 1914年 宝塚少女歌劇第一回公演『ドンブラコ』が上演される(4/1)。
『ドンブラコ』は桃太郎を歌劇化したものだった。
- 1927年 日本最初のレビュー『モン・パリくわが巴里よ』を上演。
爆発的な人気となる。
- 1938年 初の海外公演をドイツ・イタリア・ポーランドで行う。
- 1940年 「宝塚少女歌劇団」を「宝塚歌劇団」に改名。
- 1944年 太平洋戦争の激化に伴い、宝塚と東京の劇場が閉鎖される。
(再開はそれぞれ46年、55年)
- 1951年 初の一本立て作品『虞美人』を上演。
戦後初の大ヒット作品となり、ロングランする。
- 1967年 初の海外作品である『オクラホマ!』を上演する。
- 1968年 『ウエストサイド・ストーリー』初演。
- 1974年 宝塚歌劇60周年。
『ベルサイユのばら』初演。大ブームを巻き起こす。
- 1977年 『風と共に去りぬ』初演。
- 1995年 阪神・淡路大震災(1/17)。一時休演をする。再開は3/31。
- 1996年 『エリザベート』初演。
- 2005年 韓国公演『ベルサイユのばら』上演。
- 2006年 『Never Say Goodbye』上演。
ワイルド・ホーン氏が全楽曲を提供。

宝塚歌劇団は、常に栄えていたわけではない。しかし、窮地に直面するたびに劇団は、魅力的な作品を生み出すことで、観客をひきつけてきた。1945年は終戦直後で、観客も少なかったが、『虞美人』という大作を上演することで、観客を呼び集めた。この『虞美人』では、劇中に本物の馬が登場したことが話題となった。また、1970年前後もテレビの普及により、客足が伸び悩んでいたが、『ベルサイユのばら』を漫画の世界に劣らない華やかさを持って上演し、多くの観客を魅了した。この『ベルサイユのばら』については次の章で詳しく説明する。

4. 代表作『ベルサイユのばら』

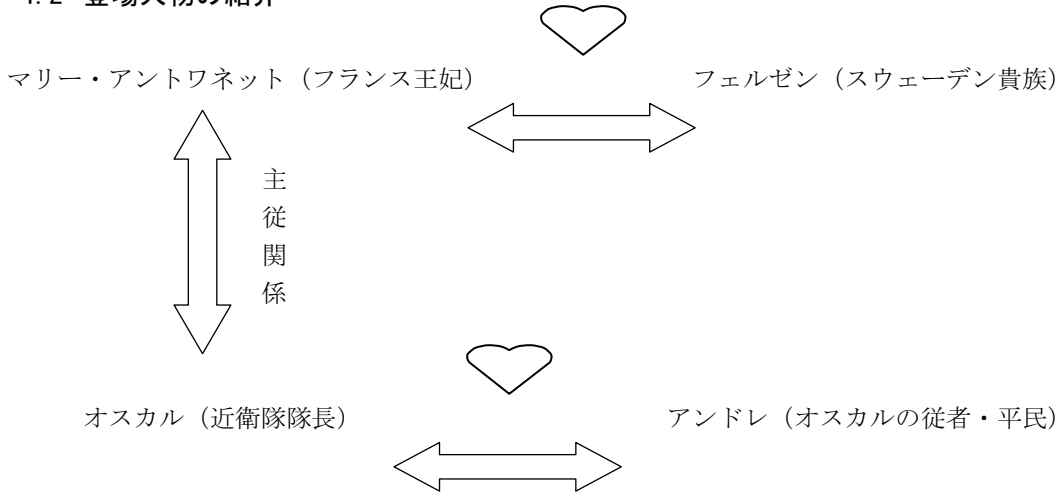
前の章でも述べたが、宝塚歌劇団の代表作といえば『ベルサイユのばら』である。この章では『ベルサイユのばら』について紹介する。

4.1 『ベルサイユのばら』

池田理代子原作の少女漫画で、通称「ベルばら」と呼ばれている。1972年～73年の間、雑誌「週刊マーガレット」(集英社)に連載された。フランス革命前から革命前期を舞台に、王妃マリー・アントワネットや男装の麗人オスカル、王妃の恋人フェルゼン、オスカルの

従者アンドレらの人生を史実とフィクションを交えて描いた作品である。女性たちの中で社会現象ともいえるほどの大ブームを巻き起こした。1974年に宝塚歌劇団が舞台化し、好評を得て、宝塚の代表作となる。

4.2 登場人物の紹介



4.3 上演記録

宝塚歌劇団では、1974年の初演以来、作品の中心人物を変えることで様々な『ベルばら』を上演してきた。フェルゼンとアントワネットの恋を中心にした、“フェルゼンとマリー・アントワネット編”、アントワネットを登場させず、オスカルの生き様にスポットをあてた“オスカル編”などである。また、再演の時期もフランス革命に関する記念の年が選ばれることが多い。以下は今までの上演記録である。

- ・1974年～1976年 初演

当時の宝塚4組全てで順次上演された。長谷川一夫を演出に迎えた。この作品の成功に対し、1974年には文化庁芸術祭優秀賞、1976年には菊田一夫演劇賞特別賞が贈られた。

- ・1989年～1991年 宝塚歌劇75周年・フランス革命200周年記念

各組の主演者の特技に合わせた新たな場面が追加される。また、各組から特別出演があり、スターらが競演した。

- ・2001年 21世紀のベルばら

東京宝塚劇場が新しくできたことで、東西での同時上演がはじめて行われた。

- ・2005年～2006年 マリー・アントワネット生誕200周年記念

韓国で上演。各組からスターが特別出演して競演した。通産観客動員数400万人を記録する。

5. 考 察

以上のように、日本ではミュージカルといえば、四季・東宝・宝塚の三大劇団名（東宝は劇団名ではないが）が挙げられる。その中でも、宝塚は、他の2つの劇団と比べると所謂「コア」なファン、つまり入り待ち出待ち（公演の前後に役者の入りや出を待つ）やファンクラブなどを行う一部の熱狂的なファンに支えられている感が強い。その理由は、宝塚独特の「男役」という存在が大きい。リアルな男性像を追求するのではなく、様式美（見せ方）にこだわった女性の求める「男らしさ」を表現する。その役作りは、現実世界以上に「男らしさ」を強調されている事が多い。

こういった女性の演じる「男」をメインとしたミュージカルが、これほど社会的に受け入れられている国は、日本だけである。歌舞伎の女形（おやま）などがすぐに挙げられるように、歴史的に見て日本人が「異性装」に対する抵抗が少ない民族であるからではないかと考えられる。また、舞台ではないが、歌舞伎町などのいわゆる夜の街では、女装をした男性を本物の女性より好むというお客の数が、海外と比べ圧倒的に多いそうだ。日本では、実際の性別よりも、「いかに女らしいか」あるいは「男らしいか」が重要視される。話は少しずれるが、この国でジェンダーフリーの浸透が遅いのは、そういった日本人の民族的な性質によるのかもしれない。それは、日本人の性同一性障害に対する比較的柔軟な姿勢からもうかがえる。

このような日本人の「異性装」に対する柔軟な土壌・民族性があってこそ、宝塚歌劇団は発展していったのではないだろうか。

〈参考文献〉

池田理代子（2002）『ベルサイユのばら大事典』集英社

宝塚歌劇団（2004）『宝塚歌劇団90年史 すみれ花歳月（とし）を重ねて』宝塚歌劇団発行

〈参考URL〉

宝塚歌劇団公式ホームページ <http://kageki.hankyu.co.jp>

劇団四季公式ホームページ <http://www.shiki.gr.jp/index.html>

東宝株式会社ホームページ <http://www.toho.co.jp/welcome-j.html>

〈実 習〉

実習の目的：日韓の芸術、ミュージカルを体験し創造性を養う。

- | | |
|-----------------|--|
| 24日 13：00－16：30 | 弘益大学周辺の芸術フェスティバルに参加し、現代韓国美術アートを見学。芸術作品を通して韓国の現代社会風刺を体感する |
| 16：30－19：30 | 大学路に移動し、駅周辺のアットホームな居酒屋で韓定食を体験 |
| 19：30－22：00 | 『地下鉄1号線』という韓国の若者向けのミュージカルを鑑賞 |

し、出演者と写真撮影

25日 12:00-14:00 報告会準備

現地視察を終えた感想として、韓国と日本のミュージカル事情の違いについて言及する。日本は大手三大劇団による独占が顕著だというのは前述の通りだが、対して韓国のミュージカル状況は、それとは対照的である。韓国のミュージカル状況を一言で言い表すと、「現在まさに発展途上である」と言える。それは、今年ミュージカル市場の伸び率が、韓国が世界ナンバーワンであったことから如実に表れている。これは、これまでミュージカルを享受するという習慣の無かった韓国人が劇場に足を運ぶようになってきたことを表しているのだろう。また、作品売上の観点から見ても、日本のように既存の大手劇団が作品や客数を独占するというわけではなく、様々な劇団が作品を上演する権利を争っている、まさに参入の余地が多分に残されている「発展途上」の段階である。大学路（テハンノ）に見られる「中小ミュージカル劇団」の多さが特徴的である。

また、上演される作品の質の面でも日本とは対照的である。日本のミュージカルは、四季に代表されるように、ブロードウェイの焼き直しがほとんどである。演劇の世界だと話は別になるが、日本人がミュージカルにおいて、その演出的手法が評価された例はほとんど無い。しかし、ミュージカルの歴史の浅い韓国ですでに、『地下鉄一号線』で有名な金監督など世界的に評価されている演出家が輩出されている。また伝統芸能を応用した『NANTA』は、ブロードウェイに専用の小屋を設けている。



韓国民俗村にて韓国伝統料理を体験

朝鮮時代の女性の「心の解放」

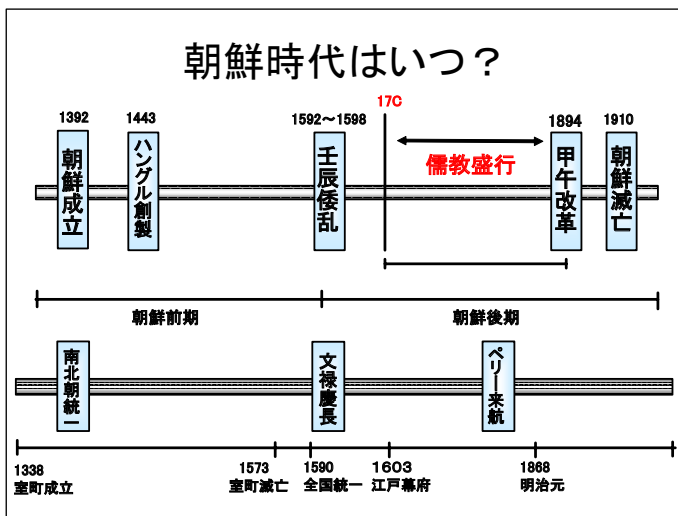
—朝鮮時代の女性生活—

姜 ハンナ
 朴 昭 妍
 楔 惠 允
 柳 安 那
 梁 ナ ル

1. はじめに

500年間続いた「朝鮮」は、儒教社会であった。男尊女卑、七去（七去之悪）、男女差別。このような思想の中で、女性は家門のため、夫のため、子供のため、生きるしかなかった。息詰まる生活からの逃げ場が必要だった朝鮮の女性たちは、自分ができる範囲で、何らかの活動をしていた。その瞬間だけは素直に自分の気持ちを正直に表現することができた。本発表の目的は彼女たちのその「表現」つまり「叫び」を通して、朝鮮の女性生活を理解することにある。

2. 朝鮮時代はいつ？



「朝鮮」の500年の歴史の中で儒教が盛行したのは200年ぐらいである。「朝鮮」は元々儒教思想をもとに成立したが、朝鮮前期には生活の深くまで伝播されてはいなかった。17世紀以降、200年にわたって続いた儒教により、近代になっても女性は「家で働く存在」としてしか受け入れなかった。

3. 朝鮮時代の女性の「心の解放」

息苦しい自分の心の表出のし方には、以下のようなものがあった。

3.1 服 飾

朝鮮前期

朝鮮後期

朝鮮前期の服飾と後期の服飾とは、上の写真からも分かるようにはっきりとした差異が見られる。後期の女性たちは儒教の影響で、前期に比べより抑圧された生活を送るしかなかった。しかし、一方、服の色や装身具などの面においては華麗になった。自分たちの生活が抑圧され、制限されればされるほど、自分を表現し表出しようとする意思が強くなっていったことが分かる。

この服飾の変化に一番大きな影響を与えたのが「妓生」である。流行を作り出す側であった妓生は、身分に関係なく、すべての女性の羨望の的であった。後期の服飾は前期の服飾に比べて、チョゴリがもっとタイトになり、チマがより膨らみをもつようになるなど色々な変化が見られるが、これは妓生を羨んで模倣した結果の産物であると言える。

3.2 文 学

3.2.1 王族女性文学＝真実告発

主に回顧録や訓戒書が多い。代表的な訓戒書である1475年の「内訓」はハングルで書かれたもので、宮中の女性の訓育にも大きな影響を与えた。回顧録には恨(閑)中録が代表的である。王室の出来事は第三者が記録するため、当事者しか知らない様々な事実は見逃しやすい。しかし、「王宮3大エッセイ」は間接当事者の宮女と直接当事者が記述したものであるため、事件以外の当時の状況や生活なども知ることができる。また、女性の視点から、一生言えなかった事実を文章で表していることから、後世の重要な参考資料としても役立っている。

* 王宮3大エッセイ

サド セザ ヘギョングンホンシ
恨(閑)中録：思悼世子の後の惠慶宮洪氏の自伝的回顧録で、米びつに入れられ死に至った夫の思悼世子の事件を中心とした宮中文学の白眉。

癸丑日記：仁穆大妃廢位事件¹から仁祖反正までの宮中物語を宮女が書いた日記。
仁顯王后伝：仁顯王后廢位事件²と張禧嬪との関係を扱った作品。

3.2.2 班家女性文学=恨

恨とは、恨み、悲しみ、無念、不公平を表すものである。円滑な統治と家父長的兩班社会を維持するため、女性はより厳しい貞節と内外³が強要された。したがって文学の内容は貞節に関するものが多く、文学活動も禁じられていた。しかし女性は独特な閨房文化⁴を形成し、漢詩、閨房歌辞、絵、書道などを発展させた。閨房歌辞には女性の苦悩や情緒がよく表れている。

作品1 「閨怨歌」 許蘭雪軒

儒教社会で生きる女性の恨を繊細に表現した作品。自分を捨てた夫を恨みながらも恋しがる心情がよく表れている。

3.2.3 庶民女性文学=諷刺

庶民文学は口伝が多いので、作者未詳がほとんどである。愉快的諷刺と滑稽な表現の使用が特徴であり、時には不合理な社会に対して正直な批判も書いた。

作品2 「嫁いびり歌」

시집살이 어땠데까?

이에 이에 그 말 마라 시집살이 개집살이
앞밭에는 당추 심고 뒷밭에는 고추 심어,
고추 당추 맵다 해도 시집살이 더 맵더라.

『 둥글둥글 수박 식기(食器) 밥 담기도
어렵더라.

시아머니 호랑새요 시어머니 꾸중새요,
동세 하나 할림새요 시누 하나 뽕족새요,
시아지비 뽕중새요 남편 하나 미련새요,
자식 하난 우는 새요 나 하나만 썩는 썰새.
배꽃 같던 요내 얼굴 호박꽃이 다 되었네.
삼단 같던 요내 머리 비사리춤이 다 되었네.

嫁いりどうなん？

そんな事聞くなよ 嫁いりは嫁いびり
前畑に唐辛子まいて、裏畑にトウガラシまいて
唐辛子トウガラシが辛いといっても嫁いびりも
っと辛い

マルマルの茶碗に飯よそいも難題

舅は虎鳥 姑は叱り鳥
あいよめは告げ口鳥 義妹はややこし鳥
夫は愚鈍鳥 子供は泣き鳥
私だけくたびれ鳥
梨花だった私の顔 かぼちゃの目鼻
見事だった私の髪型 いまやもう脱毛

¹ 朝鮮の王だった光海君が幼い弟永昌大君を殺し、大君の母である仁穆大妃を廢位させた事件
² 朝鮮の王だった肅宗が仁顯王后を廢位させ張禧嬪を王后に立てたが、結局は張禧嬪を廢位させ仁顯王后を復位させた事件。
³ 婦女がよその男性と直接顔を合わすことを避けること
⁴ 閨房：婦人が暮らす内室

3.2.4 妓生文学

男性をもてなす妓生は歌舞だけではなく、文学にもたしなみがあり、彼女たちは時調や漢詩にも優れていた。妓生文学は、男性に対する恋情や相思、恋しさに関する詩がほとんどである。

作品3 黄真伊 어저 내 일이야 그릴 줄을 모로다나 이시라 하더면 가라마난 제 구태야 보내고 그리난 정은 나도 몰라 하노라	ああ、私がしたことが、恋しがることを分かっていたのに 「行かないで」と言ったら、彼はあえて離れなかったはずなのに 行かせておいて恋しがる私の心は、私も知らぬ
--	--

3. まとめ

17世紀半ば以前の女性は、現在私たちが思っているほど抑圧されたり不自由な生活を送ったりしていたわけではない。家系の継承も可能であり、再婚も財産相続も無論可能であった。そんな女性の立場が17世紀に儒教が生活に入ってきてから大きく変わってしまった。家でおとなしくしていることが良い女性像とされ、浮気をする夫と嫁いびりの姑に耐えることが謳われていた。

しかし、自分たちに要求された役目が、男性に「従属的」で「代理的」だったとしても、それを成し遂げようとした彼女たちの努力は輝いていた。例えば両班男性に無視されていたハングルを女性たちが先に学び、素晴らしいハングル文学を残してくれた。そのおかげで今の韓国は誇らしい文字を手に入れることができたのである。

表面的には、女性の生活は「不自由」そのものであった。しかし、今まで見てきたように、実状は必ずしもそうではなかった。自分の階級に合わせ、自分の状況に合わせ、自分なりに表現しながら活動をしていたのである。どんな形であれ、自分に与えられた役目に忠実であった彼女たちが、残してくれた遺産は偉大である。

〈参考文献〉

- 권오창 (1998) 『인물화로 보는 조선시대 우리옷』
- 권혁희 (2005) 『조선에서 온 사진엽서』 민음사
- 백영자·최해율 (2004) 『한국복식의 역사』 경춘사
- 이기백 편 (1994) 『한국사 시민강좌』 일조각
- 장숙환 (2002) 『전통장신구』 대원사
- 전국역사교사모임(한) 역사교육자협의회(일) (2006) 『마주보는 한일사 2』 사계절
- 조효순 (1989) 『복식』 대원사
- 최흥기 외 『조선 전기 가부장제와 여성』 아카넷

한국의상협회 (2003) 『500년 조선 왕조복식』

〈実 習〉

実習の目的：朝鮮時代の衣食住を体験する。

- 24日 10：00－12：00 南山韓屋マウル
- 12：00－14：00 伝統ビビンご飯を食べる
- 14：00－18：00 景福宮や民族博物館を訪問
- 18：00－20：00 インサドンへ行く



韓国の楽器を体験



研究発表（日本4）

江戸の町娘ライフ

常 木 清 夏
神 田 恵

1. はじめに

最近日本では、『チャングムの誓い』や『チュオクの剣』など、韓国の時代劇（大河ドラマ）を見ることができるようになった。それらの作品の時代設定は、李氏朝鮮時代になっていることが多い。一方で日本の時代劇の時代設定は江戸時代が多い。李氏朝鮮時代と江戸時代。この2つの時代は支配期間が長いことも似通っているが、双方の時代が重なっている箇所もあり、「日本がこんな様子だったとき、韓国はこんな雰囲気だったんだな」とドラマを見ながら比較を楽しめる。もちろんテレビドラマはフィクションであり、正確にそうだったといえない箇所もある。そこで、ドラマから得られる「何となくこんな時代」という印象だけではなく、文献や絵画資料などを調べることで自分たちの文化について改めて知ると同時に日本と韓国の共通点や相違点などをみつけて、同時期の両国はこんな様子だったという正確な理解を得られれば良いと思っている。今回はこれらの時代に生きた人々の中でも「女性」をテーマに、現在の私たちにとって年齢や生活レベルに最も親近感を持てると思われる、江戸の街に生きた娘たちの生活を中心に見ていきたい。

2. 江戸時代の特色

江戸には独特の美意識として「粋（いき）」という褒め言葉が存在する。粋とはどういう様子を指すのか。岩波書店の『広辞苑』第5版によると「気持ちや身なりのさっぱりとあかぬけしていて、しかも色気をもっていること」である。具体的にどういうことか。基本的に彼らは「江戸の渋好み」といって、色ならばねずみ色や紺色、柄ならば縞や格子といった地味な着物を好んで着た。しかし、どこまでも質実剛健だったのではなく、表は黒っぽい質素な生地であるが、裏に緋色などの華やかな布を使ったり、ぱっと見は質素な着物と帯の組み合わせなのに付けている小物は凝っていたりと、こだわりを持ったお洒落を好んだ。江戸っ子の気風を表す言葉には他に「宵越しの金は持たない」という言葉がある。これはモノに必要以上の執着はしないというさっぱりした精神哲学である。執着はし過ぎないが、少しひねったお洒落心を見せつけるという考え方は江戸では男女を問わず重要な価値観であった。

こうした価値観が生じた背景には、江戸が比較的新しい町であることと武士や職人などの男が多く集まる幕府のお膝元であったことが関係している。京や大坂を含む上方は都市の歴史も古く、公家や商人など爛熟した文化の担い手が多く住んでいた。一方で江戸は徳川幕府が開かれて初めて栄えた街であり、その住人には幕府に仕える武士や職人など男が多く、武張った雰囲気は特色だった。武士の基本姿勢は質実剛健である。それゆえ元々派手なものや軽薄なものは好まれない土壌があった。その上、幕府のお膝元であったために目が行き届きやすく、上方に比べて儉約令を徹底しやすかったという面もある。上方に比べて堂々と派手な格好をしづらかった江戸の町人たちは、目立たない部分にこだわりをもってお洒落をしたりお金をかけたりして密やかな満足を味わっていたのかもしれない。

3. 町娘のファッション

粋を好み着物の裏地にいたるまで気を抜かずお洒落に気をつけていた町娘たちであったが、当時着物を仕立てるのには高いお金がかかったため、庶民はもっぱら古着屋を利用してお洒落を楽しんでいた。もともと着物に限らず全ての品物において徹底したリサイクルシステムが発達していた江戸には、多くの古着屋が軒を連ねる古着屋街があり、町娘たちは豊富な品揃えのなかから掘り出し物を探してショッピングを楽しんだ。冠婚葬祭などの晴の日の衣装は、現在と同じように「損料屋」という貸衣装屋で借りることができた。

着物に加えておちゃっぴい達を華やかに彩ったアクセサリーが櫛や簪である。何故か古代以来指輪やピアス・ネックレスといった装身具が姿を消した日本において、櫛や簪は重要なアクセサリーとして多くの美しいものが作られた。金銀翡翠などを使った高価なものもあったが、庶民は銀メッキや水牛の角・擬製べつ甲などで作られたものを使った。髪を結い上げていた当時には、髪を崩さずに頭を搔くという実用的な用途もあり、

どれででもかきなど頭出してかし

の川柳に見られるように、女の子が頭を搔くための簪を頭を差し出して男の子に貸すという、少し色っぽい恋愛の小道具としても活躍したようだ。

これら様々なファッションをリードしていたのが歌舞伎役者や遊女たちである。テレビや映画のない時代のアイドルだった彼らは、芝居や吉原といった非日常の夢の世界のトップであり、彼らは江戸中の羨望を集めた。「半四郎鹿の子」のように役者の名前になぞらえた柄や色、または花魁の結っている髪形が大流行するという現象もたびたび起こった。遊女について言えば、辰巳芸者のように男勝りな気風の芸者がもてはやされたのが江戸の特色だろう。

4. 町娘の美容・美顔術

江戸時代、美人の基本条件とされたのが白い肌・黒い髪・赤い唇だった。特に「肌の白いは七難隠す」といわれるように、白く肌理の細かい「ものが映りこむ」くらいの美しい

肌が理想とされ、おちゃっぴいたちも美肌への努力を惜しまなかった。江戸では厚塗りの化粧よりもナチュラルメイクが良いとされ、寝る前に塗った白粉を翌朝洗い落とす寝化粧・白粉を一度湯で洗い落としてから再度薄く塗る湯化粧などの隠し化粧テクを駆使して美しい肌を演出した。

美肌追求に欠かせない場がお風呂である。当時個人の家庭や長屋には風呂のないのが殆んどであったため、お風呂といえば湯屋が普通だった。男女混浴も多く、今と比べ薄暗く狭かったので痴漢騒ぎもあったが、『浮世風呂』に見られるように人々が集まるおしゃべりの場でもあった。

江戸の女性達は湯屋でおしゃべりに興じながら、ぬか袋で身体を、ウグイスの糞で顔を洗った。ぬかには、洗浄力のある酵素や美肌効果のあるビタミンEなどが含まれ、また適度に油分を含むので保湿もバッチリという、美肌にはうってつけの優れものであった。ウグイスの糞は現在の私たちが聞くとちょっとびっくりしてしまうかもしれないが、こちらにも肌に優しく、しかも美白効果のある漂白酵素や余分な皮脂を落とす脂肪分解酵素が含まれた美白の友だったのである。

現在のお風呂風景と違うのは洗髪だろう。当時の人々は髪を綺麗に結び上げていたため、髪を解いて洗髪をするのは月に一、二度だった。江戸時代初期はまだ髪形にもそれほどバリエーションはなく、女は一人で髪が結えて一人前という風潮があったが、中期ごろから髪形が次第に複雑化するにつれて専門職の髪結いが登場するようになった。

5. 町娘の日常生活・娯楽

江戸時代は特に大きな戦乱もなく、人々も比較的安定した生活ができたため、庶民の町娘といえども、一年を通じて贅沢ではなくとも様々な娯楽を楽しむことができた。季節折々の花見や行事、芝居見物などはその最たるものである。江戸の人々の一年のイベントをざっとあげると次のようになる。

春：正月一晴れ着を着て初日の出・初詣。

ひな祭り、お花見など

夏：風物詩一棒^{ほてふ}手振り（行商人）

朝顔、白玉、ところてん、冷や水（砂糖水）、風鈴、西瓜、など

秋：お月見、萩見物、虫聞き、菊見

重陽の節句（九月九日）—お稽古のお師匠さんのところへ挨拶に。菊酒。

神田祭・山王祭

冬：雪見

十一月の酉の市—熊手・八つ頭（サトイモ）

お事始め（十二月八日）、煤払い（十二月十三日）、大晦日

芝居は、時間は明け六つ（AM6時）から暮七つ半（PM5時）、席料は桝席・向こう棧敷16文（400円）から棧敷席35匁（45,000円）と、自分の時間の都合や懐具合にあった楽し

み方ができる、江戸っ子の大好きな娯楽であった。娘たちも髪を結ったり着物を選んだり最大限のおしゃれをして出掛け、お目当ての歌舞伎俳優に掛け声をかけたり、幕間のおしゃべりや飲み食いを楽しんでいた。

外へ出掛けるだけでなく、読書も娘たちの大きな楽しみの一つだった。当時は本も高価だったため、貸本屋を利用するのが普通であった。恋愛小説である「人情本」は風紀を乱すと何度も取り締まられたにも関わらず人気を博し、少女マンガに胸をときめかせる現代の女の子たちと同じく、人情本に夢中になる江戸のおちゃっぴい達の様子がうかがわれる。

ただ楽しいばかりが人生でないのも現在と変わらない。通りに面した表店、少し羽振りの良い店の娘に生まれると、武家屋敷への奉公という良縁や出世の必須条件を目指したお稽古事の日々が待っている。起床して文字通り朝飯前から夜寝るまで、手習い・三味線・お琴・踊りとハードなスケジュールをこなすのである。しかしこれらのおかげで高い教養が身につく、例え結婚しなくとも三味線などを教えるという自活の道が彼女たちには開かれていた。

6. 町娘の恋愛と結婚

娘時代を謳歌したおちゃっぴいたちも、多くは十代後半で結婚して若奥さんとなった。男性の数が圧倒的に多い江戸では、結婚は女性の売り手市場であったようだ。恋愛に関しては、実態はおおらかな面もあったことが「八百屋お七」などの描写からうかがえるが、儒教思想を旨とし、「三従」などを掲げる『女大学』が女子のための教科書として広く読まれていた江戸時代では、やはり男女がおおっぴらに付き合うのは好ましくないとされ、結婚も親同士が家の釣り合いなどを考えて決めることが多かった。そのため、たまに恋愛結婚夫婦である「新世帯」があったりすると、やっかみと羨ましが半ばしたからかいの対象になったようである。

結婚すると気ままな娘時代と変わって舅・姑に仕え肩身の狭い思いをすることも多かった。しかし、時がたち、子どもが生まれ家の切り盛りもしっかりできるようになると発言権も増し、家庭を支える堂々としたおかみさんになるのであった。

7. おわりに

江戸時代の女性というと封建社会の中で厳しくしつけられ、男に従属していたというイメージが先に立つ。しかし詳しく彼女たちの生活を見ていくと、もちろんそうした側面もあったことには違いないが、今以上に自由でのびのびとしている面もあって、私たちが思うほど苦しく閉塞的な生活を送っていたわけではないことに気づかされる。おしゃれにのめりこんだり歌舞伎俳優に熱をあげてみたり、好きな相手を追いかけていたり「私たちと同じことをやってる」と微笑ましく思うところも多いのではないだろうか。ステレオタイプなイメージにとらわれ過ぎず、似ている面も思いがけない面も両方あるのだと知るこ

とは自国内の文化・異文化を問わず文化理解に必須のものであり、それによって生まれる親近感という感情は愛情を持って対象を見ることでもあるから、全てを包括した上で文化を肯定できるきっかけになればと思う。

〈参考文献〉

- 江藤千文（2005）『お江戸ガールズライフ』ブロンズ新社
田井友季子（1981）『江戸女豆事典』原生林
原田伴彦他（1991）『図録・近世女性生活史入門事典』柏書房

〈実 習〉

実習の目的：李氏朝鮮時代の女性の生活について学ぶ。

- | | | |
|-----|-------------|----------------------|
| 24日 | 11：00－13：00 | 南山韓屋村で兩班の邸宅を見学。 |
| | 14：30－15：00 | 景福宮城門前で門衛の交代式の再現を見学。 |
| | 15：00－16：00 | 景福宮見学。 |
| | 16：00－17：00 | 国立民俗博物館を見学。 |
| | 17：00－20：00 | 仁寺洞散策・夕食 |
| 25日 | 13：00－13：30 | 報告会準備 |



時事日本語学院を訪問

第3回国際交流セミナーから見えた韓国人学生に よっての異文化交流の意義と今後の方向性について ーセミナー参加者の感想文を通してー

水 口 里 香（同徳女子大学博士課程）

1. はじめに

今年度で第3回目を迎えた同徳女子大学（韓国）とお茶の水女子大学（日本）の交流セミナーは、第1回目と同様、韓国側が受け入れ側という立場のセミナーであった。しかし1回目の韓国側の参加者は日本留学を半年後に控えていた学生がほとんどであったが、今回は、日本の学生たちと交流をしたいという動機から参加した学生がほとんどであり、また日本側からの参加者が増えたなど、1回目とは異なる点がいくつか見られた。

本稿では、韓国側の学生たちから得られた感想（アンケートによる）の分析とアシスタントとしての観察を通して、韓国にいる日本語学習者にとっての異文化交流の意義、そして今後のセミナーのあり方や方向性について考えてみたい。

2. 韓国側の参加者

韓国側から参加した同徳女子大学生29名の概要は以下の通りである。

学科；日本語学科…全員

学年；2年生…2名、3年生…24名、4年生…3名

彼女たちは、セミナー参加者募集の掲示や日本文化関連の授業での公示をきっかけとして、このセミナーに参加した学生でたちである。この中には、第1回目セミナーの参加者も2名含まれている。

3. アンケートの分析

セミナー終了後、参加者に対してアンケートへの回答を求めた¹。アンケートには、シン

¹ 韓国側の参加者に対しては、韓国語で記述してもかまわないことにした。

ポジウムに関して・野外活動に関して・ホームステイに関して・民俗村に関して・日本に対する考えの変化・セミナー全体の感想や改善点などの項目が設定されていた。

本稿では、この項目のうち、シンポジウムに関して・ホームステイに関して・日本に対する考え方の変化・セミナー全体に関する記述に焦点を当て、セミナー準備段階とセミナーでの観察を含めながら、アンケートの分析²を行なっていく。

3.1 シンポジウムに関して

今回のセミナーにおけるシンポジウムでは、前々回・前回とは異なり、「育児」「食」「結婚」「女性の美意識」「ミュージカル」「江戸／朝鮮時代の女性」という実に多様なテーマが設定され、このテーマについて韓日両国がそれぞれグループを構成し、調査や資料収集など発表を準備した。韓国側は6月中旬にグループの編成とグループ別の準備が始められた。全体での中間発表会（発表練習会）も全3回行なわれ、回を重ねるごとに内容も日本語も洗練されたものになっていき、第二言語での発表としては申し分のない発表を準備できたグループもあった。

このシンポジウムに関する学生たちの感想は、次の4タイプに分類される。1つ目は両国の発表によって韓日の差を改めて認識したという感想で、2つ目は日本に親近感を感じたという感想で、3つ目は、類似点と同時に違いを感じたというものである。そして一番多かったのは、シンポジウムの意義について述べている感想である。今回は、テーマが多様であったし、教員による講演がセミナーの中に組み込まれていなかったという点で、教える者も学ぶ者も全て学生であり、いわゆる協働学習を引き起こすことができたと考えられる。したがって、学生たちは日本人学生からテーマに関する日本事情や日本文化を教えてもらったことで、より一層日本文化に興味を持つようになり、普段の教室では得られないような理解を促すことができたという感想を残していたのだと思う。また韓国事情・韓国文化を分かりやすく伝えるためにはどうしたらいいのかについて全てのグループが工夫を凝らしていたことによって、自文化を顧み、自文化を理解しておかなければならないという気づきも促したと考えられる。

しかしながら、韓国側の学生の中には、セミナーに積極的に参加していなかった学生がいたことも事実である。今回は、一グループ当たり4～6名編成であったが、2人だけが発表を担当しているグループがあったり、準備段階には個人的な事情により参加できずセミナーのみに参加している学生も見られた。この点について、感想文で反省を述べている学生もいたし、またこの点を準備段階及びセミナー期間中、ずっと不服に感じている学生もいたようである。再来年に開催予定である第5回目のセミナーも、今回と同じく、韓国でのセミナーになるだろうが、その際にはもっと多くの韓国学生参加が見込まれる。その場合、学生一人一人に積極性や責任感を持ってこのセミナーに臨んでもらうために、アシスタントとして、どのように学生たちと接していくべきなのか。このことについては、

² アンケートを提出した16名分の回答を分析の対象としている。

私自身の今後の課題としたいと思う。

3.2 ホームステイに関して

前々回と同じく日本人学生は全員、韓国人学生の家でホームステイをしたが、今回のセミナーは、前々回よりも多少ホームステイの期間（5泊6日）が長かった。韓国側のセミナー参加者中、14名の学生がホームステイの受け入れをしたが、このホームステイこそ、韓国人学生の異文化交流にとって大きな役割を果たしていたと察せられる感想が多かった。

ここで、ホームステイの受け入れをした学生の感想を引用してみたい。

A「ホームステイ前は日本人学生を受け入れることを少し負担に感じていたし、また色々心配だったが、ホームステイを終えてみて、国籍は関係なく、世代が同じならば、心が通じ合い、いろいろと話せるような友達になれるということが分かった。まだ韓日間では歴史的な問題が解決されていないが、そんなことは私達の関係とは、関連がないと思うようになった。つまり、若い世代は、対立的な関係ではなく、また歴史的な事実だけに目を向けたり、固定観念に縛られるたりすることなく、新たな視点で日本を眺めていかななくてはいけないと感じた。」

B「日本語での意思疎通がうまくできなくて、もどかしく感じたことが多かった。そのため、日本語学習の意欲が湧いた。ホームステイによって、すごく違っている点や似ているようで微妙に違う点など、韓国と日本との文化差を感じた。韓国の文化に気づき、また日本の文化を学べたと思う。」

C「ホームステイは初めてだったので、色々心配だった。たとえば、ご飯はどんなものを出したらいいかなど。しかし、R（日本の学生）と色々話をし、外国人も私も同じなんだと感じるようになった。」

D「日本人といえば、とても静かで、自分だけの時間を持つとうろと思っていたので、うちに来たら、自分の部屋だけにこもるのではないかと思っていた。しかし、M（日本の学生）はまったく違って、私の家で、家族と一緒に過ごしてくれ、とても感動した。また多くの日本人が、歪曲された歴史を知っていながらも、日本のほうがもっと優れていると考えているかと思っていたが、Mは全然そうじゃなかった。Mと1週間一緒に過ごして、相手に配慮する心と異文化を理解する心を養うことができた。」

A～Dの感想から、ホームステイにより、国籍を超え一対一の関係が築くことができただけでなく、今まで持っていたステレオタイプを崩すきっかけが得られたと推察できる。またホームステイをしなかった学生からも「ホームステイによって、日本人の友達と仲良くなりやすいので、いいと思う」という感想を残していた。しかし反対に「ホームステイをしないと、日本人学生と仲良くなるのが非常に難しく、大変だった。」という感想もあった。一番理想的な形は、韓国側のセミナー参加者が全員ホームステイ受け入れ先になることであろうが、これは現実的には難しい問題である。「次からは、ホームステイできる人を

中心にしたセミナーやグループ作りをしたほうが良いと思う。」という学生からの改善点のように、ホームステイのメリットとデメリットを十分に考慮したうえで、参加者全てが均等に交流できるような機会を提供していくことが必要ではないだろうか。

3.3 日本に対する考え方の変化

今回のセミナーによって、韓国人学生たちは日本に対する考え方は変化したのであろうか。前回と同じく「セミナーによる日本に対する考えの変化」を聞いてみたところ、次のような変化が学生自身の中で起きていたことがわかった。一番多かった変化は、「日本文化は独特なもの・自分たちとは違うもの・よくわからないから、心配」という考えが、セミナーによって「日本に対して親密感を持つようになった」というものである。次に多かったのは「日本人に対して抱いていたステレオタイプ（本音と建前・自己主張をしない集団など）の変化」及び「自文化に対する気づき」である。今まで教科書や講義などから得られた知識のみで日本人を見ていた学生たちにとって、このセミナーで個としての日本人との出会い、1週間という期間をともに過ごし、同じ世代を生きる者としてお互いの意見を交換したことが、今まで持っていたステレオタイプに疑問を抱くきっかけになったのであろう。

これ以外にも「知識として日本を学ぶだけでは足りない。日本という異文化に向き合い、色々と考えていきたい。」といった異文化に対する態度の形成や日本文化に対する理解促進などが見られた。もちろん「変化したことはない」という学生も若干いたが、上記の感想が出されたことは、今回のセミナーは、日本国外という環境で日本語を学習中の参加者にとって、非常に有意義なものであったことが窺い知れる。

しかしながら、「セミナー期間中、日本人の人間関係をどう思ったか」という問いに対して「嫌でも相手の事をすべて受け入れてしまう点が、理解できない」や「やっぱり控えめだと思ふ」などの意見が何名かの学生から出されたことを考えると、このセミナーによって日本人に対して抱いているステレオタイプが崩壊したとまでは言い切れないであろう。したがって、今後、彼女たちの持つ“日本人観”がどのように変容していくのか、またその要因は如何なるものなのかを、観察していく必要があると感じた。

3.4 セミナー全体に関して

セミナー全体について韓国側の学生から出された意見の中で最も多かったのは、セミナーの日程に関するものである。今回のセミナーでは、まず1日目にシンポジウム（計12グループの発表）を行なったのであるが、12グループの発表を母語ではない日本語で聞くことは、韓国側の学生にとって非常にハードなスケジュールだったようである。そのため、「発表が進むに連れて、集中できなくなっていった」という感想を述べている学生が多かったのであろう。また「同じテーマの日本のグループと十分にコミュニケーションをとってから、本当に知りたがっている韓国の情報を選び出すという時間がほしかった」や「お互いの国に対して事前に調査をしておき、その調査の過程で疑問に思ったことや意見を準

備し、相手側の発表を聞いた後で、どのように考え方が変わったのか、またはどんな点が理解できるようになったのかなどのお話をする時間があれば、もっとよかったと思う。」という感想も出された。この感想から、今後は、セミナー開始前つまり準備の段階からお互いにメールなどで頻りに連絡を取り合い、可能ならばテレビ会議などのシステムを用い、お互いに顔合わせをしておいてから、セミナーに入るほうがもっと密な交流が実現できるかもしれないと思われる。したがって、セミナー前もしくはセミナー開始直後にラポールを形成できるような日程にしたうえで、シンポジウムを進めることも一つで解決策になるのではないだろうか。

そして、セミナーの日程以外の感想には、「日本語で発表をし、発表を聞いたこと及び日本人学生との交流できたことによって、自信がついた。」または「もっと日本語の勉強を頑張ろうという気持ちになった。」というものが多かった。第二言語習得に関する研究において、「自信」や「自分の足りない点に気づくこと」が言語学習の成功の一要素になると言われていることを考えると、ただ交流のみを行なうタイプのプログラムと違い、このセミナーは上にも記した通り、日本国外という環境で日本語を学習中の参加者にとって非常に有意義なものであったと再確認できた。

4. 考 察

以上が、アンケートの分析であるが、今回のセミナーを終え、韓国人学生の日本語力にとセミナーでの使用言語について考えていかななくてはならないと強く思った。第1回目のセミナー参加者は、上述の通り、交換留学生の選考試験から選出され、半年後に日本留学生を控えていた学生がほとんどであり、第2回目のセミナー参加者は、日本滞在経験のある学生や日本語のレベルが比較的高い学生たちであった。しかし、今回のセミナーには、1年間の日本留学経験者もいれば、日本語でのコミュニケーションがまだうまくできない学生、日本語力に自信がない学生など、参加者の日本語レベルは実に様々であった。そのためか、「セミナーのよくなかった点は、何ですか。」という問いに対し、以下のような感想が出されていた。

- ・「全て日本語だったので、理解できないことがたくさんあった。」
- ・「日本語がうまくないので、日本人の学生たちとあまり話せなかったことが残念。」
- ・「日本語が上手な学生に頼ってばかりいて、責任を持ってセミナーに参加していなかった人がいたこと。」

3.4のところに記したとおり、セミナーが全て日本語で行なわれたことは、学生たちに自信を持たせ、また日本語学習の意欲を湧かせたという大きなメリットがあることは確かである。しかし、日本語が上手な学生だろうとまだうまくできない学生だろうと、同じように、責任感を持って参加し、また日本人学生との交流をしていくためには、今後、どのよ

うなことが必要なのだろうか。まず、考えられることは、韓国側の参加者に対し、セミナーの準備段階の時に、セミナー経験者である先輩の話聞くなどして、交流が日本語のレベルに左右されるわけではないことを理解させ、また大学院生などのアシスタントが準備段階から参加し、学生間のレベル差を考慮に入れて彼女たちのサポートをしていくことも一つの対処法になるであろう。

そして、第2回目の日本側のようにセミナーを授業の一環として行ない、今までよりも余裕を持ってセミナーの準備をしたり、異文化交流のための戦略について考えておいたりすることによって、最後まで責任を持ってセミナーに参加するという環境を作ることができるだけでなく、日本人学生とどのように関係を築いていけばいいのか、またはうまく交流が進まなかった時には、どのように対処したらいいのかについて学生たち自身で事前に考えておくことができるのではないだろうか。また、実現は難しいかもしれないが、韓国語を学習中の日本人学生と二つの言語を使用したセミナーが開催できたならば、双方の学生が言語面において、ほぼ対等の立場で参加できるようなセミナーになるであろう。

5. 最後に

韓国側のアシスタントとしての観察と学生たちから得られた感想を通して考えてみたが、このセミナーは、第1・2回目と同じく、机上の学習では得られないような異文化に対する理解と新たな気づきそして自文化への気づきを促すことができたと言える。このような機会を与えてくださった同徳女子大学とお茶の水女子大学の先生方に、心から感謝したい。

最後に、参加者たちが韓国という環境において、異文化に対する態度・自文化に対する気づき・日本人学生との交流など、このセミナーによって得た様々なことを、今後どのように自己の日本語学習に生かしていくことができるのか、また今回の交流をどのように持続させていくのかなどについて、今後も学生たちを見守っていきたいと思っている。そして、今後も継続してこのセミナーのアシスタントとして参加し、国際交流の方向性についても考えていきたい。

国際交流セミナーに参加した日本人学生の 気づきと今後のセミナーの方向性

—参加者の感想文を通して—

石 井 佐智子（お茶の水女子大学博士前期課程）

1. はじめに

今年度のお茶の水女子大学（日本）と同徳女子大学（韓国）との交流セミナーは、日本側が韓国へ向かい行われた。受け入れ側の韓国側の学生のほとんどが日本語を専攻しているのに対し、日本側は渡航前に、準備として韓国文化、韓国文化について学んだ学生であった。また、日本側には長期にわたる海外滞在歴や特定の外国語を専攻として学ぶ学生はならず、今回が初めての海外渡航、外国人と衣食住を共にすることが初めてという学生も少なくなかった。

以上の点を考慮すると、日本側の学生にとって今回のセミナーは今後、海外、あるいは日本国内で異文化に接触するときの素養となりうる体験だと考えられる。今回の体験を通して学生が何を思い、どんなことに気づきを得たのかを明らかにすることで、このセミナーの意義を考えていきたい。

また今後、異文化接触の比較的少ない日本の学生がどのようにセミナーに関わっていくかを考えることも重要であると考えられる。

以上から、本稿では日本人学生へのアンケートとアシスタントとして学生に同行した1週間の観察から、日本人学生のアンケートを分析する。そして分析結果から日本人学生の気づき、学びを考察し、セミナーの意義と共に今後のセミナーのあり方や方向性について考えていく。

2. 日本側の参加者

日本側から参加したお茶の水女子大学生18名の概要は以下の通りである。

専攻：グローバル文化6名を中心に人間環境科学、歴史、地理、日本文学、フランス文学など

学年：1年生…3名、2年生…8名、3年生…3名、4年生…4名

学生は本学の授業を履修し、授業の実習としてセミナーに参加している。授業は4月に開講され、8月に行われたセミナーで授業は終了する。

3. アンケートの分析

セミナー終了後、参加者は履修する授業の課題として感想文を提出した。感想文に関しては項目があらかじめ設けられていた。

本稿では項目の中から、シンポジウムの感想、ホームステイの感想、セミナー全体の感想に焦点を当てアンケートを分析する。分析にあたっては、学生の感想をいくつかに分類しながら、日本人学生の気づきを明らかにし、7日間の観察と照らし合わせながら考察を進めていく。

3.1 シンポジウムに関して

セミナーでは、日韓の学生がそれぞれグループを構成し、テーマをもとにプレゼンテーションを行うシンポジウムが行われた。シンポジウムで発表されたテーマは「子ども」「食」「結婚」「女性の美意識」「ミュージカル」「江戸／朝鮮時代の女性」である。各テーマに日本側、韓国側が1グループずつ取り組み、日本側6グループ、韓国側6グループ、計12グループがプレゼンテーションを行った。

日本側のプレゼンテーションはグループごとに準備、打ち合わせを行い、全体で進捗状況などを報告しながら本番に臨んだ。また、準備段階では同じテーマを扱う韓国側のグループと連絡することが求められた。

日本側のシンポジウムに関する感想は主に6つに分類できた。

1つ目は、韓国側の発表への感心である。

- ・韓国側の学生の熱心な姿勢は見習いたい。
- ・発表の完成度に感心した。
- ・しっかりと準備がしてあった。
- ・日韓の類似点、相違点を事前に調べてあった。
- ・パフォーマンスやビデオ上映があり工夫されていた。
- ・日本人学生が直接韓国の楽器に触れるコーナーがあり楽しかった。

以上のように、韓国側の熱心な姿勢や発表の工夫に感心し、刺激を受けたようである。

2つ目は、発表内容から気づいた文化における日韓の類似点、相違点である。

- ・抑圧された生活の中で素晴らしい文学作品が生まれたことは平安時点とも類似点がある。
- ・女性像の変化は日本と似ていた。
- ・日本の平安時代に行われていた遊びと類似しているものがあり、互いに中国からの影響を大きく受けていることを再認識。
- ・ハングルによる文学作品と仮名文字による文学作品に通じる点がある。
- ・整形に関する考え方に違いがある。
- ・日韓の違いや類似点がよくわかった。

発表内容から、自分自身で日韓の文化の類似点、相違点を見出し、気付いていること窺

える。

3つ目は、各テーマにおける日韓の関連性である。

- ・事前にほとんど連絡が取れなかったため韓国側が何をやるかわかっていなかった。
- ・韓国側が行ったアンケートと同じことを日本側も調べていたら、比較もできてよかった。
- ・韓国のグループの発表と接点がなく、もっと接点があったらよかった。
- ・事前にも少し日韓のテーマに接点をもたせてもよかった。
- ・自分たちが調べたテーマとは少しずれていた。
- ・同じテーマを扱った韓国グループのように動画を用意すればよかった。

これは、発表テーマはどれも範囲が広く、多様な着眼点から発表ができるものである為に、発表内容が対称的ではなかったことから出た意見であろう。また、既述したように学生は、自ら日韓の類似点、相違点を見出し、考えようとしている。そのため、双方の着眼点等に関連性を持たせ、類似点、相違点を浮かび上がるような発表を望んだのではないだろうか。

4つ目は、自文化に対する理解である。

- ・日本人学生の発表の中にも今まで考えもしなかった視点を発見した。異文化の中から自文化を見られて良かった。
- ・日本人なのに知らないことも多かった。異文化から自文化を見ると同時に、異文化から自文化を見てももらうことも大切。
- ・自分の文化についても知らないことがあったので勉強になった。

日本側、韓国側の発表を聞き、自文化に対して改めて、理解することがあったようである。

5つ目は韓国側の日本語への感心・配慮である。

- ・日本語の上手さに驚いた。
- ・日本語能力の高さに感心した。
- ・日本語で書いたレジュメに感心。

以上のように韓国側の日本語能力に感心しながらも、次のように

- ・韓国の学生は外国語での発表で大変な準備だったと思う。発表もしっかりしていて、日本語も上手だったが、自分たちのより何倍もの努力があったことに気づいた。

と外国語で発表を行う韓国の学生に配慮し、努力を理解しようとする意見も見られた。

6つ目は、日本では知ることができない韓国である。これに関しては以下のような意見が見受けられた。

- ・日本のマスコミでは取り上げられないこともわかった。
- ・この発表がなければ知りえなかったことをたくさん知れて良かった。

以上に挙げた6つ以外にも少数意見として

- ・自分たちがアンケートでは聞きにくいいため、項目からはずしてしまったことも韓国

側は単刀直入に聞いていた。そして、韓国側の学生も質問を拒まずに発表の場で答えており、驚いた。

と発表での態度、様子から日韓の気質に関する相違を垣間見て驚いたという意見があった。他にも

- ・世界はどこも似通っているが、それぞれのもつ独自性も大切にしなければならない改めて実感した。
- ・韓国人に日本の劇団をもっと知ってほしいし、日本人にも韓国の演劇・ミュージカルに興味を持ってほしい。

のように、文化の独自性を大切にすべきだという意見、双方で知る、双方で興味をもつことの重要性を挙げる意見もあった。

3.2 ホームステイに関して

日本人学生は全員、韓国人学生の家でホームステイをした。ホームステイの期間は2日から最終日までの5泊6日であった。

ホームステイに関する感想、意見は多岐にわたったが、主な意見は4つに分類された。

1つ目は、ホームステイ先の家族への感謝である。

- ・毎日必ず家族団らんの時間を作ってくれ、次の日の予定も一緒に考えてくれた。また、一緒に料理をしたりテレビを見たり、スーパーにいったりもした。
- ・家族のように自分を受け入れてくれた。
- ・自分に親切にしてくれ、感謝している。
- ・自分の話に耳を傾けてくれ、嬉しかった。
- ・配慮をしてくれ、邦楽をかけてくれたり、NHKのニュースをかけてくれたり、お風呂にもお湯を入れてくれた。
- ・忙しい中でも家族が精一杯もてなしてくれた。
- ・直接は話ができなくても、優しさは通じた。
- ・家族の方には温かく迎えてもらった

など、ホストファミリーへの感謝の気持ちが多数見受けられた。

2つ目は、ホームステイならではの経験・気づきである。

- ・食生活やさまざまな習慣など、一緒に生活することを通して、韓国文化を実感することができた。
- ・バスや地下鉄に乗り、旅行では体験できないことができた。

というホームステイならではの経験に触れる感想がたくさん見られた。他には韓国の一般家庭に足を運んだことで

- ・家族同士が話し合っており家族はいいなあと思った。
- ・家族同士で仲良い。
- ・絆が深い。

と、韓国人の家族の絆を垣間見たという意見が見られた。また

- ・家は物が少なくシンプルで物を置かないお国柄かな。
- ・物に囲まれた生活を好まないのかなと思った。
- ・ベランダに窓がついていて防犯上いいなと思った。

と、住居に関しての感想を挙げる者もいた。さらにホームステイ先で韓国の家庭料理を口にして

- ・韓国の人は韓国の文化、食文化に誇りを持っている。
- ・「食べること」がこんなに部分を占めているのかと気づかされた。
- ・家庭料理やおもてなし方も体験できて楽しかった。

と韓国の家庭料理を通して韓国の食文化を考える意見も見られた。

3つ目はホームステイ先での戸惑いである。

- ・食文化の違いには驚くことばかり。
- ・浴槽がなくて驚いた。
- ・トイレを目の前にしてのお風呂は最後まで慣れなかった。
- ・トイレとお風呂は戸惑った。
- ・マイペースで困った。日本語が通じず、英語に救われた。
- ・積極的に韓国の家庭に入っても大丈夫だと聞かされていたが、実際、生活してみると、韓国の友達は思慮深く、遠慮がちだった。
- ・韓国の家族が日本の映画などに自分より興味を持っていた。自文化についても相手文化についてももう少し調べておけばよかった。

という意見があった。ホームステイ先では主にトイレとお風呂に戸惑った学生が多いようである。また、24時間パートナーと過ごすため、コミュニケーションや距離のとり方に戸惑いを感じた者や、事前のアドバイスとは異なる状況、また事前の準備不足に戸惑った者がいたことが窺われた。その他、少数意見として

- ・日本人をあまり知らない家族の方にとって、自分が日本人代表のような可能性がある

という意見も見られた。

4つ目は韓国語の問題である。

- ・韓国語がもっとできたら、自分からもっと話しかけられた。
- ・韓国語がまったくできず家族の方とのコミュニケーションが不足して残念であり、反省。
- ・韓国語がまったくできず悔しく、もどかしい思いだった。
- ・韓国語ができず、コミュニケーションが不安だった。
- ・もっと韓国語を勉強しておけば良かった。お客さんになってしまったことが反省点。

という意見があった。韓国側の学生が日本語専攻であり、韓国の学生との会話はほぼ100パーセント日本語であった。ただ、ホームステイ先の家族との共通言語は日本語ではなかった。そのため、もどかしく、家族とのコミュニケーションが不足してしまったという意見もあったのだろう。また、言語の面からも韓国の学生にまかせっきりにしてしまい、お

客さんになってしまったという反省も見られた。

以上が主な感想であった。少数意見であったが、コミュニケーション姿勢への気づきを挙げた学生もいた。その感想を以下で示す。

- ・ステイ先の家族とは日本語でコミュニケーションがとれないので、知っている英語・韓国語・日本語をフルに駆使してコミュニケーションを図った。お互いに不自由ではあっても、友好的な関係が築けた。コミュニケーションの基本はシンプルで温かい気持ちが第一で、言語はその次。それが再確認できて嬉しい。

3.3 セミナー全体に関して

セミナー全体に関する感想は主に6つに分類することができた。

1つ目は、生の韓国に触れられたというものである。

- ・直接、色々な体験をすることによって韓国の実像がつかめたと思う。
- ・韓国社会内での格差、日本人などに対する偏見など、端々に異文化間で生じる問題や韓国社会の問題なども垣間見えた。
- ・旅行では見ることのできない側面を知ることができた。
- ・うわべではなく、日常生活も垣間見ることができてためになった。
- ・百聞は一見にしかず。

以上のように、同世代の学生と接し、韓国家庭で生活することによって旅行では触れることのない韓国社会に触れ、刺激を受けたことが窺える。

2つ目は、自文化への理解である。

- ・自文化についてあまりに知らなかった。答えられない質問が多く、情けなく思った。
- ・韓国の学生の意識や関心の高さに感心すると共に日本人として最低限の問題意識や興味を持っていかなければいけないと思った。
- ・自分の国のことを知っていくのも不可欠だと感じた。
- ・自文化についても学ばなければならない。
- ・外に出たからこそ、その国の良さを発見できるし、自国についてもその良さを再発見し、もっと知りたくなる。

韓国の学生と対話を深めていくうちに、相手の質問に答えきれない部分、知らない部分があり、もっと自文化を知る必要があったと思ったのだろう。この背景には、韓国の学生が日本語を専攻し、日本の文化などについても予備知識があるため、表面的な質問に限らず、「日本ではどうか?」「どうしてか?」という質問もあった為だと考えられる。

3つ目は、事前準備の必要性である。

- ・反省点として、行く前に韓国の文化とか文字をもっとしっかり学んで情報を取り入れるなど、念入りな準備をしていた方が疑問を抱きやすかった。
- ・事前にもっと韓国について勉強しておけばよかった。
- ・ホームステイ先の家族とは意思の疎通をすることが難しく、簡単な単語ぐらひは韓国語が分かるようにしてから韓国に行けばよかった。

- ・心を大切にすれば、いい関係が築けると気付いたが、同時に語学も大切。
- ・ホームステイ先の人との共通言語がないことがもどかしかった。お礼を言おうにもいえなかった。

以上から、韓国の学生が日本語、日本文化に対して、しっかりと準備してあるのに対し、日本の学生はすべてが未知のもので、なぜ？どうして？という疑問まで掘り下げにくかったことが窺われる。他には、韓国語でのコミュニケーションがほぼ出来ない為、ステイ先の家族に思いを伝えられなかったことから韓国語の練習の必要性も見受けられた。

4つ目は、韓国側への学生に頼りすぎてしまったことへの反省である。

- ・パートナーの日本語、日本への理解に頼りすぎてしまった。
- ・ホームステイ先の子にすべてをまかせっきりにしてしまったので、もっと積極的にすればよかった。

以上から、言語面で相手の日本語に頼らざるをえないながらも、相手に頼りすぎてしまったことへの反省が窺われる。ここから韓国側が全日、ホスト役であったことも垣間見ることができよう。

5つ目は、日韓の友好関係の希望である。

- ・自分が日本の過去の事実を隠そうとしているのだと気付いた。日本が韓国に何をしてきたのかをきちんと見つけ、8月15日はお互いにどんな記念日であるのかを考えていきたい。
- ・早くお互いの国からの偏見をなくし、もっと交流の機会を持てるように私も努力したい。
- ・国民同士が交流することが重要である。これからも交流をもちたい。
- ・より深い関係、つながりを求めたとき、大きな困難に直面するようにも思った。
- ・人単位では仲良くなれるのに、国家間になると難しい。
- ・もっともっと韓国のことを知って、民間でのふれあいが濃密になってほしい。

韓国を訪れ、同世代の仲間と触れ合うことで、日韓の友好を望み、どうしたら友好関係を築けるか考慮する意見が見られた。

6つ目は、視野の広がりである。

- ・身近なことをローカルとするなら、私のローカルは極東地域全域に広がった。
- ・あらゆるものに関心をもつ必要性を感じた。
- ・初めてアジア地域の関係を考え、将来の仕事につなげていきたいと思った。
- ・より広い世界から韓国、日本を見たい。
- ・日本と韓国の共通点を探すばかりで、その根本の持つ意味をもう少し考えるべきだった。これからの学びにつなげていきたい。

以上のように韓国での体験を通して、視野・関心を広げていくことの必要性や自身の視野が広がったことを述べる意見が複数見られた。

4. 考 察

日本側の学生は初めて直接、異文化に接し、戸惑いながらも自身の視野を広げながら、自文化を見つめ直したり、目の前にいる仲間の国の文化、及び仲間の国との友好関係を真摯に考えたりしている様子がアンケートから窺われた。そして、シンポジウムやホームステイを通して、自発的に韓国学生やホストファミリーと関わるために韓国語、韓国文化をもっと勉強する必要性があったと考えているようである。

以上のことから、このセミナーが日本の学生に異文化に接する際の素養を養うものであると考えることが出来る。

以上のように本セミナーの意義も見られたが、日本の学生の「韓国語、韓国文化について事前に準備すべきだった」「お客さんになってしまった」という気づきからセミナーの今後の課題も浮かび上がったのではないだろうか。それは、言語面で韓国側に頼らざるを得ない日本側と韓国側の関係をいかに対等にし、活動を協働していくかという問題である。韓国側がホスト役に徹することなく、日本人学生も時に韓国人学生をリードできる場面をいかにして作るべきか、今後の課題であろう。この課題を改善するには、韓国の学生が日本人と日本語で話したいという気持ちでセミナーに参加している要素も見逃せない。

次回のセミナーに向けて、日本人学生は今回の参加者の意見を参考に、言葉や文化の事前学習をし、どちらかがホスト役に徹することなく、いかに活動を協働していくかを考える機会を設けることも必要であろう。

5. 最 後 に

今回、日本側のアシスタントをし、日本の学生が目に映るものを絶えず吸収していく様子を1週間にわたって目の当たりにした。今回の交流を通して、学生が学んだことを日本でどのように発展させていけるか、今後、考えていきたい。

また、感想文を分析しながら学生をいかにサポートしていくか、アシスタントとしての課題も見えた。この課題は自分自身の今後の課題として見つめていきたい。

最後になったが、セミナーの企画、開催にご尽力くださった先生方に感謝申し上げたい。

国際交流セミナーを終えて

金 榮 敏（同徳女子大学校）

今回の韓日・日韓国際交流セミナーを成功裏に終わらせたことを大変うれしく思います。今日このような成果をあげることができたのは、このセミナーを開催するにあたってお茶大の皆さん、そして同徳の学生たちがそれぞれ努力してきたからだと思います。お茶大の皆さんは森山先生の「異文化交流実習」という授業の一環としてセミナーの準備をしてきたことでしょう。同徳の学生たちは授業の一環ではなかったにしても、5月末からほぼ3か月にわたってこのセミナーのために準備してきました。

一昨日の発表を聞いて、発表の内容においても日本の学生、韓国の学生、共に一生懸命に準備し、努力してきたことがうかがえてとても感心しました。日本の皆さんは母語である日本語でのやりとりですから、言語面において難しい点はあまりなかっただろうと思います。ところが、韓国の学生たちにとっては、日本語は外国語であるわけですから、日本語で自分たちの意見や調べた資料をまとめて発表するとなると、これが大変な作業にならざるを得ないということと言うまでもありません。この大変さは私も同じ道を辿ってきたものとしてよくわかります。

また、もう一つ感心したことがあります。皆さんは気づいているかもしれませんが、一昨日と今日とで同徳の学生の日本語がより自然になっているということです。もちろん、同じグループの日本人学生に日本語のチェックをしてもらったりしているかと思いますが、これも交流の力、成果ではないかと思います。

このように、短い期間であっても、会ってお互いに話し合う、そして違いも感じ合うことがどれだけ意義あることかを今回のセミナーを通じて改めて感じました。そして、皆さんはグループごとのテーマについて、昨日実習をしたのですが、発表のテーマ以外にも様々な体験ができたようで、とてもよかったと思っています。日本と韓国は違う国ですからいろいろな面で違いがあります。そのことを各自が体験できたのではないのでしょうか。自分が住んでいるところ以外の国の文化を体験する、ありのままを受け入れることは大切なことだと思います。素直にありのままの姿を受け入れる、見る、そして体験すれば、歴史などの問題を解決する糸口にもつながるのではないのでしょうか。そういう意味でも今回のセミナーは意義あるものだったと思います。

国際交流セミナーを終えて

李 徳 奉（同徳女子大学校）

セミナーはこれで終わりですね。韓国の学生はランゲージ・ショックを、日本の学生はカルチャー・ショックを体験し大変だったと思います。同じ文化圏でも昔は30年ごとに世代間の違いがある、つまりカルチャーが違うという話がありましたが、最近は1年ごとにカルチャー・ショックがあるとも言われます。自分の国の中でもカルチャー・ショックが少なくないということは、皆さんも実感されることだと思います。このように、私たちの毎日はショックの連続だとも言えるでしょう。そこで私たちの毎日は、ショックをいかに自分の中で調整し、取り入れていくかという連続ではないでしょうか。

また、皆さんは、これからグローバル化といかに向き合っていくかが肝心だと思います。そして、グローバル化というのは、適応のプロセスだと思います。私はそのプロセスを楽しんでいけば良いと思っています。

今回、初めて韓国に来た学生も多いかと思いますが、外から見えるものは、形になっているものだけです。言いかえれば、管理されているもの、あるいは商売になっているものしか見えません。人間に見えるものは、自分が知っているもので、知らないものは見ることができません。外国に出て行っても、結局、目に見えるものは自分の国でも見えていたものです。自分の中に入っている情報は見えますが、全く入っていないものは見過ごしてしまいます。外に出て行って見る習慣、見る練習をすることはとても大切だと思います。それは国内でも同じです。他文化とは外でのみ出合うものではなく、国内でもたくさん出合えるものです。韓国にも日本人がたくさんいますし、日本人の文化もたくさんあります。また、日本にも国際的な要素がたくさんあります。ですが、自分が知っていること、自分の中にあるものでなければ、全て見過ごしてしまいます。いわゆる内なる国際化、グローバル化も大切なことだと思います。

他文化に対する接し方ですが、respectが大切だと思います。相手の文化に対するrespectなしには、真の理解はできないからです。「他文化に対するrespect」の訳し方ですが、私は「他文化に対する愛情」と訳しています。もちろんrespectと愛情とは違いますが、日本語、韓国語で使われている愛情が、他文化に対する基本的な態度として大切だと思っています。

先程の報告の中にもありましたが、自文化に対する理解は大切です。ですが、自文化に対する客観的な理解がより大切だと思います。今の靖国問題がその例です。中国、韓国から見る考え方と日本から見た考え方とは異なっているでしょう。このような類の問題は、もう60年以上も続いています。いつまでこの問題は続くのでしょうか。お茶大の皆さんが先程言ったように、韓国には日本語で話しかけてくれる人、親切な人もたくさんいます。それなのに、政治やマスコミはどうしてこんなに長い間、喧嘩をつづけているのでしょうか。民間レベルでは親しくできるのです。そもそもアジア人同士、親しいはずですが、それは皆、集団主義であり、集団が好きだからです。この集団というのは、自分の集団だけでなく、隣近所も含まれています。

そこで、皆さんにお願いしたいのは、国際関係をこれ以上政治家に任せきってはいけないということです。民間が変われば、政治家も変わります。民間が黙ってはいけません。もっと国際交流を進めていけば、政治家も「実は私もそう考えていた」と言い始めるでしょう。民間には政治を変えていく力があると思います。

少々大袈裟かもしれませんが、最近の韓国における英語学習は、異常ともいえるほどのもので、心配する声も少なくありません。日本における英語学習は韓国ほど異様ではありませんが、日本の場合、国際理解教育を掲げておきながら、蓋を開けてみたら英語の勉強だったということが多そうです。これは果たして真の国際理解教育と言えるのでしょうか。東アジアの韓国、中国、日本という3つの地域は、共通点も多く、レベルも決して低い地域ではありません。歴史的な交流は、良きにせよ悪しきにせよ、大変長いものです。その点からも非常に協力しやすい体制にあると言えます。共同体ができて、何も不思議はない地域です。しかし、未だお互い意地を張っています。世界中に共同体制ができて、東アジアだけが残っています。アメリカの国務省の報告によると、アメリカ人にとって最もハードだとされる言語は、中国語、韓国語、日本語、アラビア語だそうです。東アジアの3つの言葉はアメリカ人にとってとても難しい言語です。それを逆に考えてみましょう。この3つの国の人々にとって英語ほど難しい言語はありません。この3カ国で共同体ができたなら、この3つの言葉が公用語になります。EUでは25の国の23の言葉が公用語です。これに比べたら、3つは少なすぎるほどですし、公用語が3つというのは難しいことではありません。私たちが東アジアの言語を2つ学んでも、英語を学ぶ力の3分の2、または半分ぐらいで中級の上レベルになります。また、3つの国の人口を合わせると約18億です。この18億が仲良くなれば、東南アジアの7億人が中国語、韓国語、日本語を学び始めます。インドは15億人ほど人口があるとも言われていますが、インドで英語が流暢な人は全体の4%です。ドラビダ地域などの南部は東アジアの言語と語順が同じですから、漢字が難しくても、彼らはすぐに上達するでしょう。そうすると、インドの人達も東アジアの言語を学び始めます。これで40億人です。現在、地球の人口が60億ですから、そのうちの7割が日本語、韓国語、中国語を話すことになります。インドが入ればヒンズー語も入ってくるでしょうが、ここでお話ししたいのは、この3つの国が仲良くなれば世界の言語教育が変わるということです。こうなれば、アメリカ、ヨーロッパの人達も東アジアの言語を学ばざるをえない状況になるのです。しかし、今の私たちは英語ばかりを眺めているのが現状です。今、21世紀の希望が持てると言われているのがアジアです。アジアには何でもあります。人も物も大変、多様です。21世紀の未来はアジアにあると言っても良いでしょう。それなのに、このアジアでポイントとなる3つの国はどうしてまだ歴史問題に囚われ互いに意地を張っているのでしょうか。もう少し違う、大きな問題で共に悩み、考えていけたらもっと良いのではないのでしょうか。そのような時代の到来を皆さんの力で繰り上げられたらと思います。このような機会を通じ、隣近所といかに接していくかというヒントが得られたら、収穫だと思います。明日、明後日とまだありますが、楽しく過ごして下さい。お疲れ様でした。

国際交流セミナーを終えて

森 山 新（お茶の水女子大学）

第3回目の日韓大学生国際交流セミナーが終わった。前回は日本での開催であったため韓国での開催は今回が2回目となる。今年は「異文化交流演習」の授業で日頃研究発表の準備を行ったこともあり、研究内容の学術性が格段に増した。また今年からグローバル文化学環の学生が多数参加したため、海外における日本語教育現場（時事日本語学院）を視察し、その会話授業を体験した（その内容は『月刊日本語』（アルク刊）に掲載された）。

学部生にとって海外旅行は国際交流、異文化理解の貴重な体験であり、それだけでも参加の意義は大きい。このように学部生の頃から日頃の研究成果を海外で発表し、自分の国と文化について紹介し、さらに海外で日本語・日本文化を学ぶ学生たちと同じテーマについて討論し、日韓の文化比較を行えるということは、大きな学びの場になったことと思う。韓国の学生にとっても、授業を通じ知識として学んできた日本の文化を、日本の学生たちと実際に交流しながら学ぶことはよい刺激となったと思う。と同時に、外国語としての日本語でその内容を発表したり、自身の文化を日本語で日本人に紹介したりすることは、負担にはなっただであろうが、日本語能力の向上に大きな動機づけと飛躍の機会を与えてくれたと思う。両国の学生とも、海外というとやはり何よりも欧米が思い浮かぶであろうが、グローバルな現代にあって、近隣諸国との関係はより直接的でその重要性も高い。その意味から、海外ではなくアジアの、しかもよい意味でも悪い意味でも歴史的に深い関わりを持ち続けてきた両国が、実際に語らい、真実の姿に触れたことは、今後彼女らが国際舞台で活躍し平和を実現していく際に、とても重要な体験を与えてくれたと確信している。

実際に日本側参加者の感想を見ると、行く前には韓国の学生たちは日本に対する反日感情が強く、暖かく迎え入れてくれるかと不安を抱く学生も少なくなかったが、韓国の学生の溢れる気持ちに触れて、そういった思いは一瞬のうちに吹き飛んでしまったようである。また同じ東アジアに位置し、似ているようで大きく異なる面を持つ韓国の文化に触れる中で、自分たちの文化について考えさせられ、また自分たちが自らの文化に対して知らなかったかを感じ、再度それに対して研究の志を固めたり、韓国留学を考えるに至った学生もいた。

海外大学との交流は、安全対策などリスクもあり、事前の交渉など準備することも多く、実施するのは容易でないが、それを行って余りある価値がある。とりわけ未成年を含む学部生同士の交流はそうである。今後も感受性豊かな学部生に、グローバル時代に求められる国際感覚を身につけていただくために、教育者として苦勞を惜しまぬ姿勢を持ち続けていきたいと思う。

最後に、この企画を実施するにあたり、大学施設やスクールバスをご提供くださった同徳女子大学の皆様、私たちの18名の学生を家族のように暖かく迎えてくださったホームステイのホストファミリーの方々、安全対策などの点でご協力いただいた本学の教職員の方々にこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。



別 れ

2006年第3回日韓大学生国際交流セミナー報告書

発行年月日 2007年1月31日
発 行 お茶の水女子大学国際教育センター
住所 〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
電話&FAX 03-5978-5965
<http://jsl.li.ocha.ac.jp/>
発行 協力 同徳女子大学外国語学部日本語学科
住所 〒136-714 ソウル特別市城北区月谷洞23-1
電話 02-940-4370 FAX 02-940-4191
編 集 森山 新 (お茶の水女子大学)
編集 協力 石井佐智子 (お茶の水女子大学)
水口 里香 (同徳女子大学校)
印 刷 よしみ工産



★第3回日韓大学生国際交流セミナー★